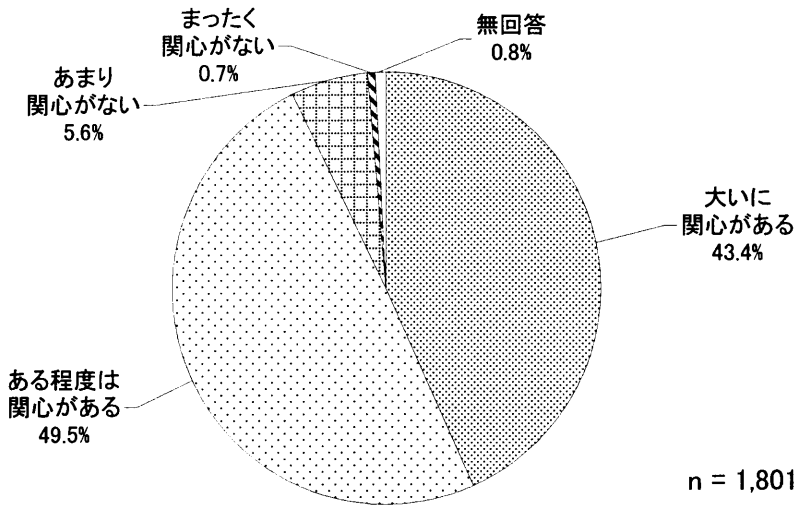
# 4．魅力ある都市景観形成に関する意識調査

## 4－1　景観や風景、街並みへの関心

*◇『関心がある』が９割強*

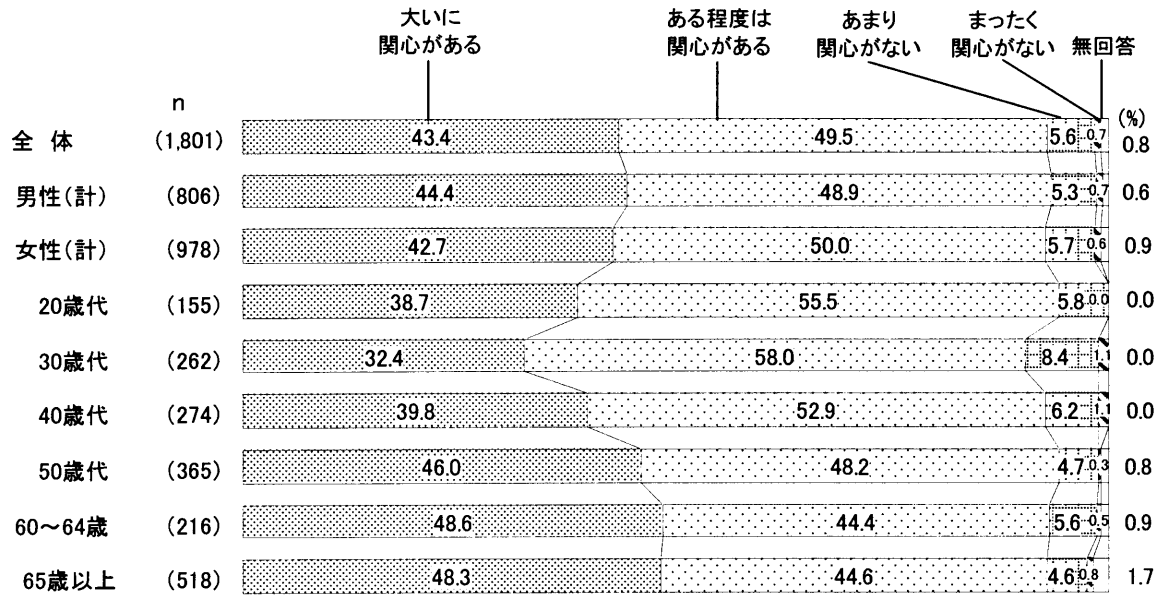
問４　あなたは、景色や風景、街並みに関心はありますか。（○は１つだけ）

図４－１－１




景色や風景、街並みへの関心を聞いたところ、「ある程度は関心がある」が５割近く（49.5%）と最も高く、「大いに関心がある」（43.4%）と合わせた『関心がある』は９割強（92.9%）を占める。また、「あまり関心がない」（5.6%）と「まったく関心がない」（0.7%）を合わせた『関心がない』は１割弱（6.3%）にとどまっている。（図４－１－１）

図４－１－２　景色や風景、街並みへの関心－性別・年齢別

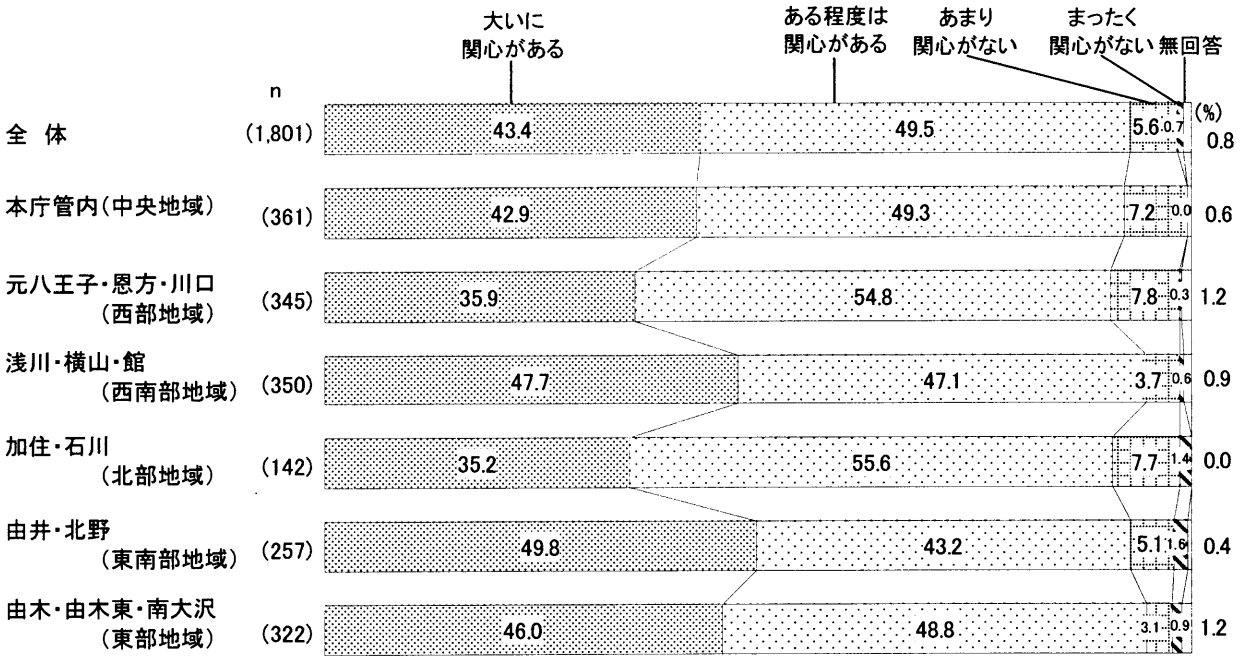



性別には大きな差はみられない。

年齢別にみると、概ね年齢が高くなるほど「大いに関心がある」の割合が高くなっている。

（図４－１－２）

図４－１－３　景色や風景、街並みへの関心－居住地域別



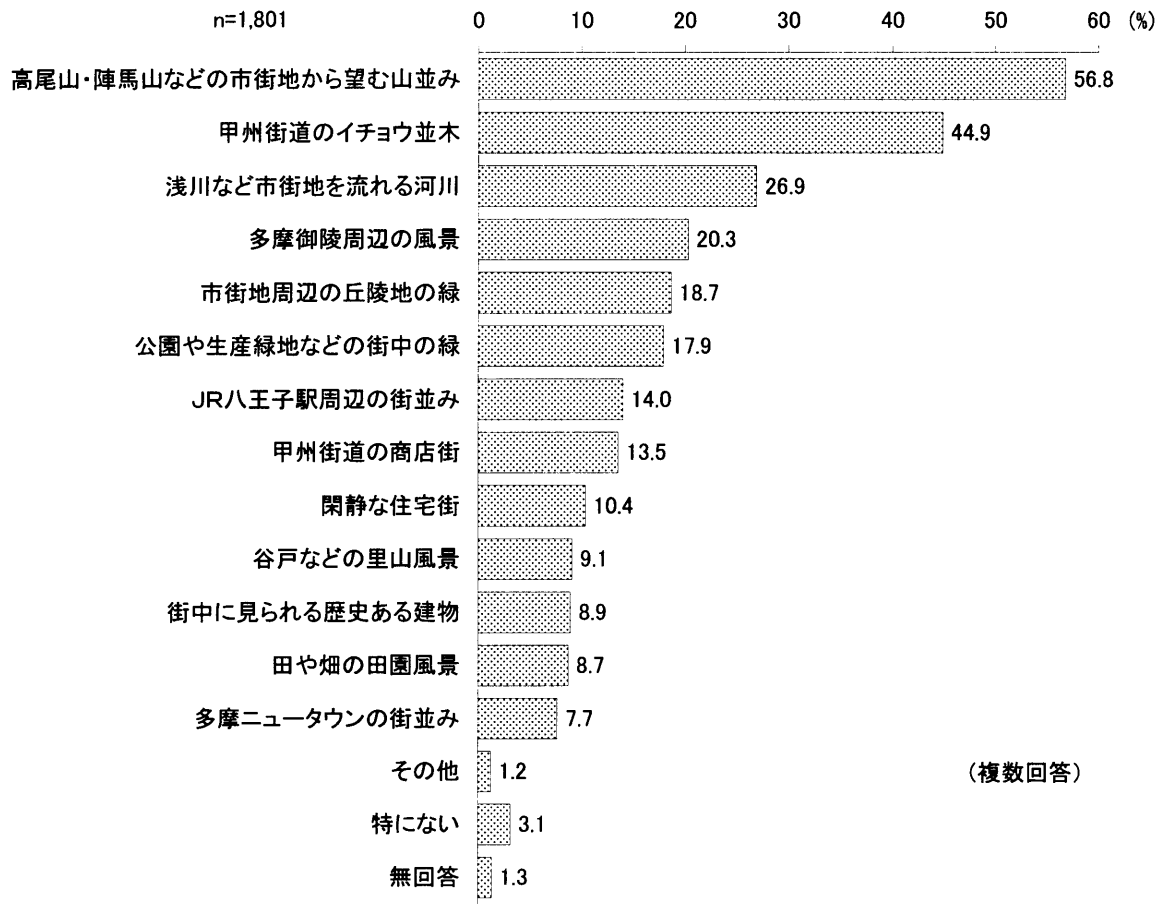

居住地域別にみると、『関心がある』はすべての地域で９割以上を占め高くなっている。また、「大いに関心がある」は由井・北野（東南部地域）が５割近く（49.8%）と最も高く、元八王子・恩方・川口（西部地域）、加住・石川（北部地域）は３割台半ばと、他の地域が４割を超えているのに比べ、低くなっている。（図４－１－３）

## ４－２　景観として大切にしたいもの

*◇「高尾山・陣馬山などの市街地から望む山並み」が５割台半ば*

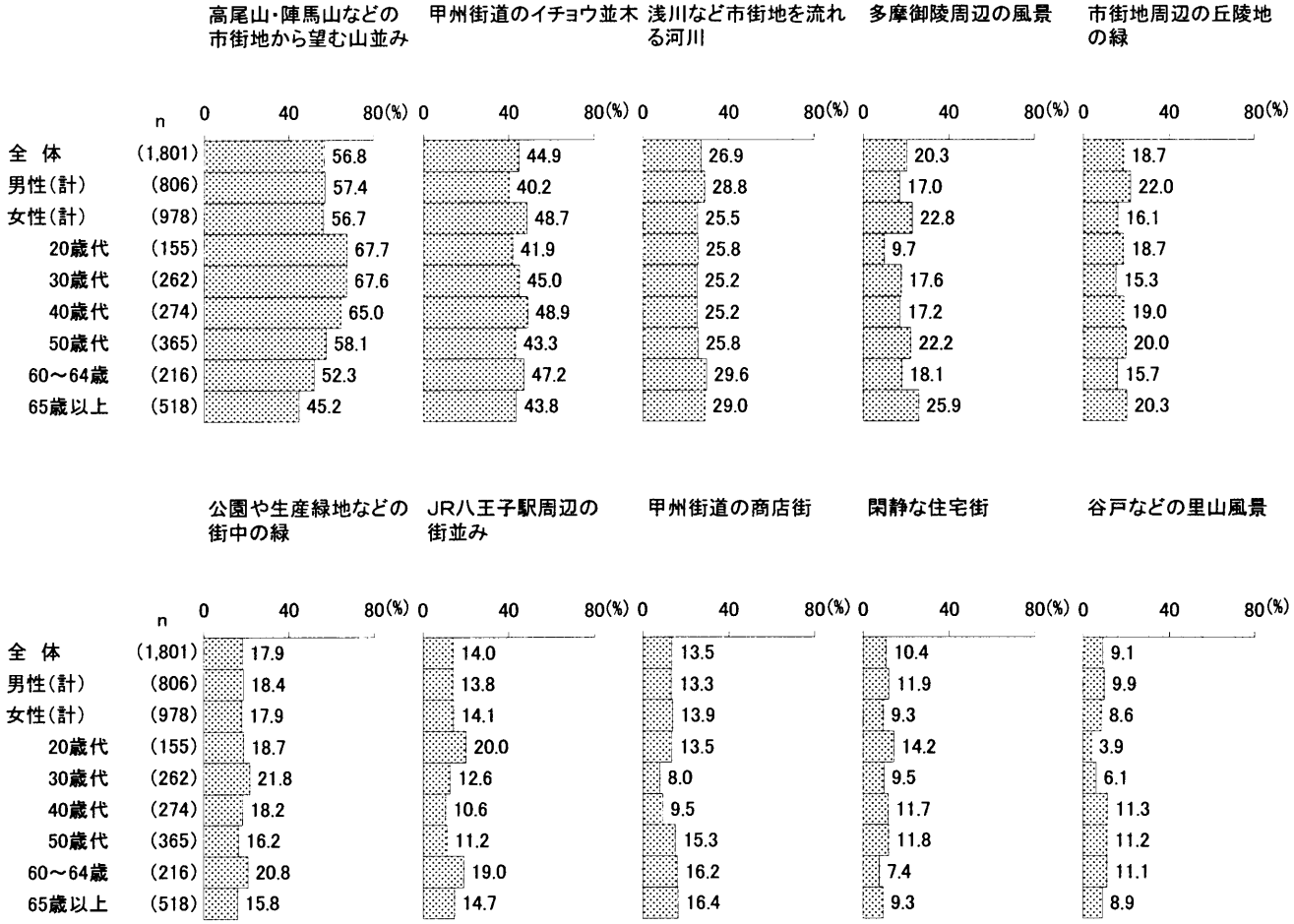
問５　あなたが八王子らしさを感じる景観として、特に大切にしていきたいと思うものは何ですか。（○は３つまで）

図４－２－１




八王子らしさを感じる景観として、特に大切にしていきたいと思うものを聞いたところ、「高尾山・陣馬山などの市街地から望む山並み」が５割台半ば（56.8%）と最も高く、ついで「甲州街道のイチョウ並木」（44.9%）、「浅川など市街地を流れる河川」（26.9%）、「多摩御陵周辺の風景」（20.3%）と続いている。（図４－２－１）

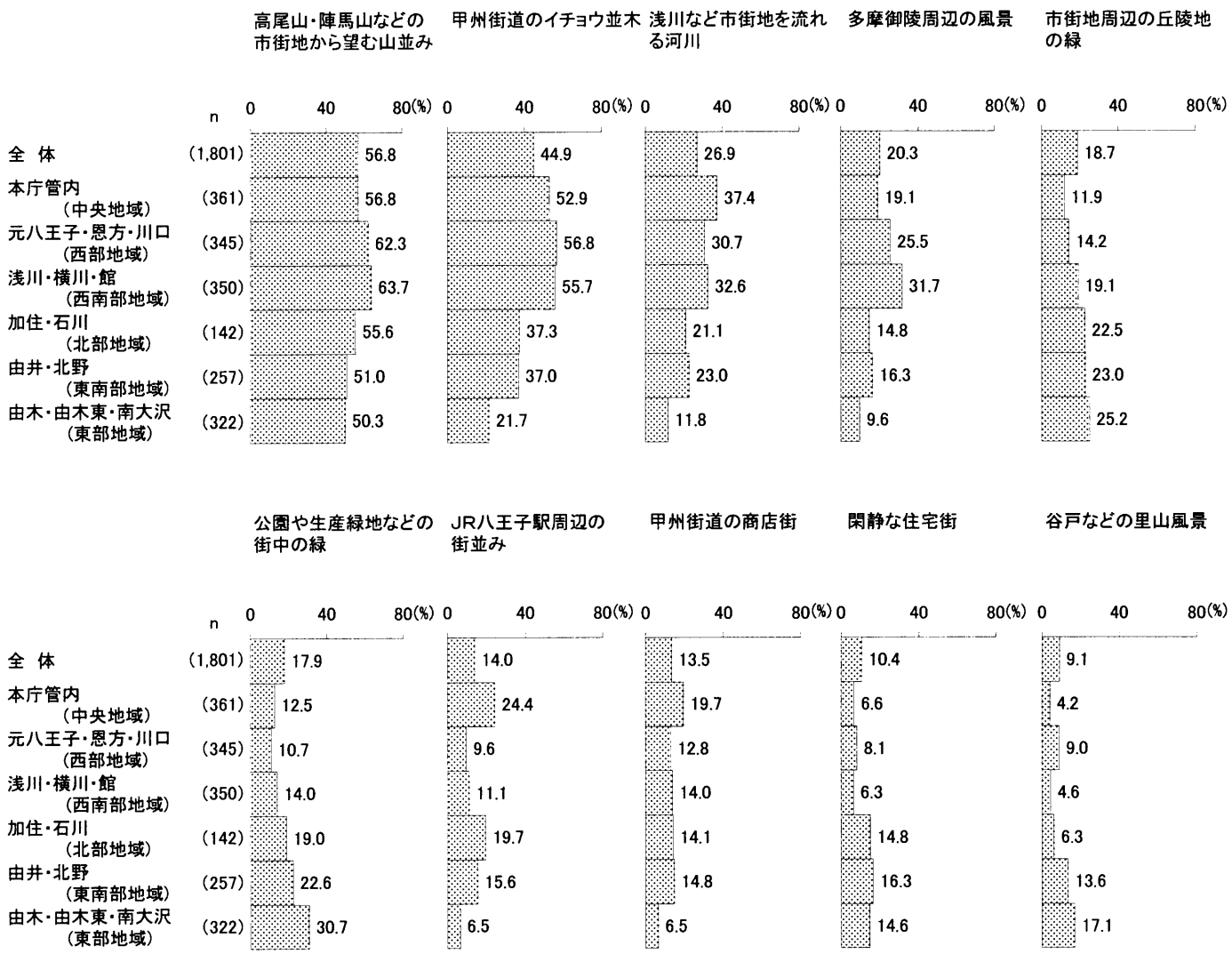
## 図４－２－２　景観として大切にしたいもの－性別・年齢別（上位10項目）




性別にみると、「甲州街道のイチョウ並木」は女性のほうが8.5ポイント高く、「市街地周辺の丘陵地の緑」は男性のほうが5.9ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「高尾山・陣馬山などの市街地から望む山並み」は年齢が低くなるほど割合が増加する傾向がみられる。（図４－２－２）

## 図４－２－３　景観として大切にしたいもの－居住地域別（上位10項目）



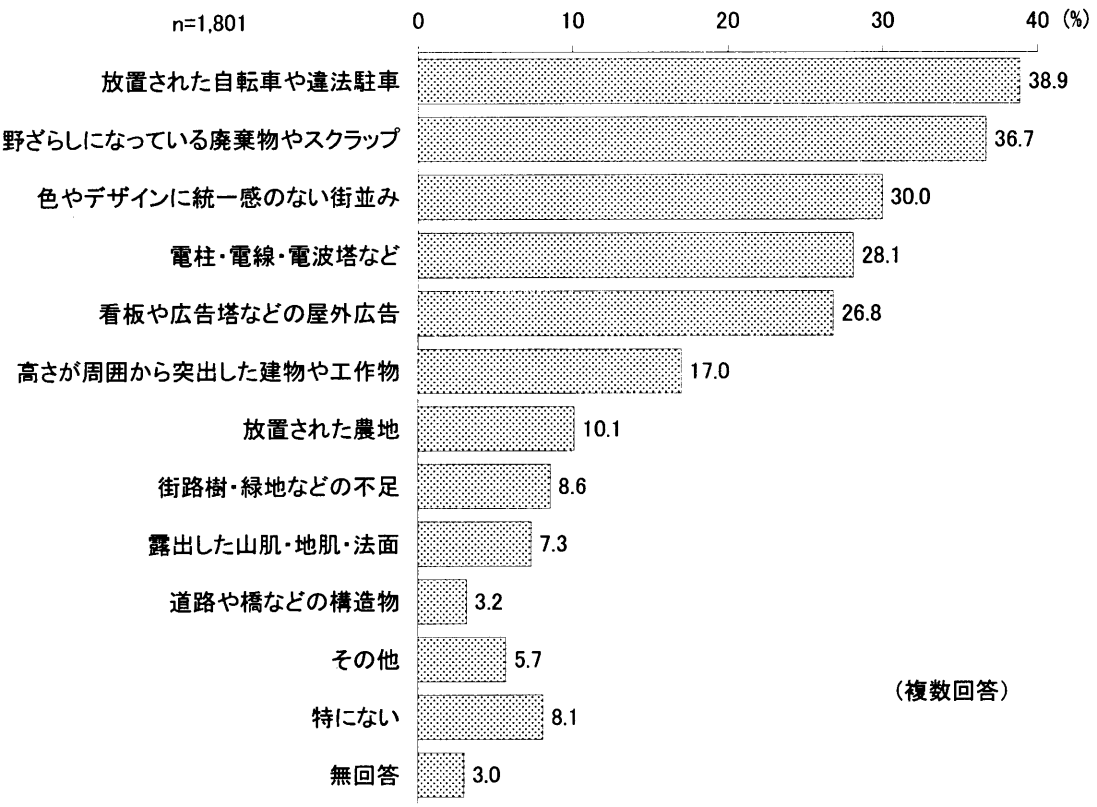

居住地域別にみると、「甲州街道のイチョウ並木」は本庁管内（中央地域）、元八王子・恩方・川口（西部地域）、浅川・横山・館（西南部地域）で５割台と比較的高くなっている。（図４－２－３）

## ４－３　景観を損ねているもの

### ◇「放置された自転車や違法駐車」が４割弱

問６　あなたが八王子の景観を損ねていると感じるものは次のどれですか。（○は３つまで）

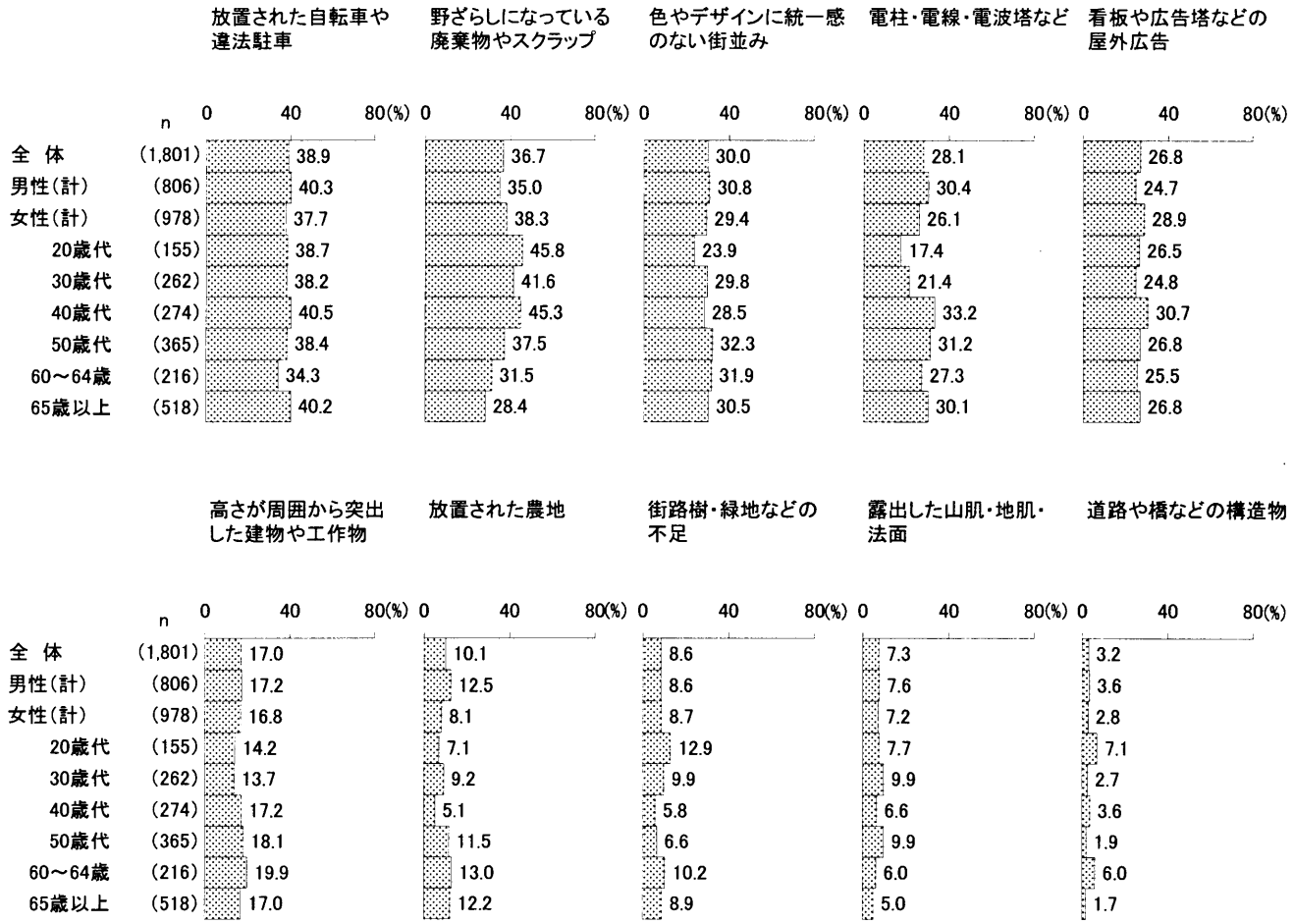
図４－３－１




八王子の景観を損ねていると感じるものを聞いたところ、「放置された自転車や違法駐車」が４割弱（38.9%）と最も高く、ついで「野ざらしになっている廃棄物やスクラップ」（36.7%）、「色やデザインに統一感のない街並み」（30.0%）、「電柱・電線・電波塔など」（28.1%）の順で続いている。

（図４－３－１）

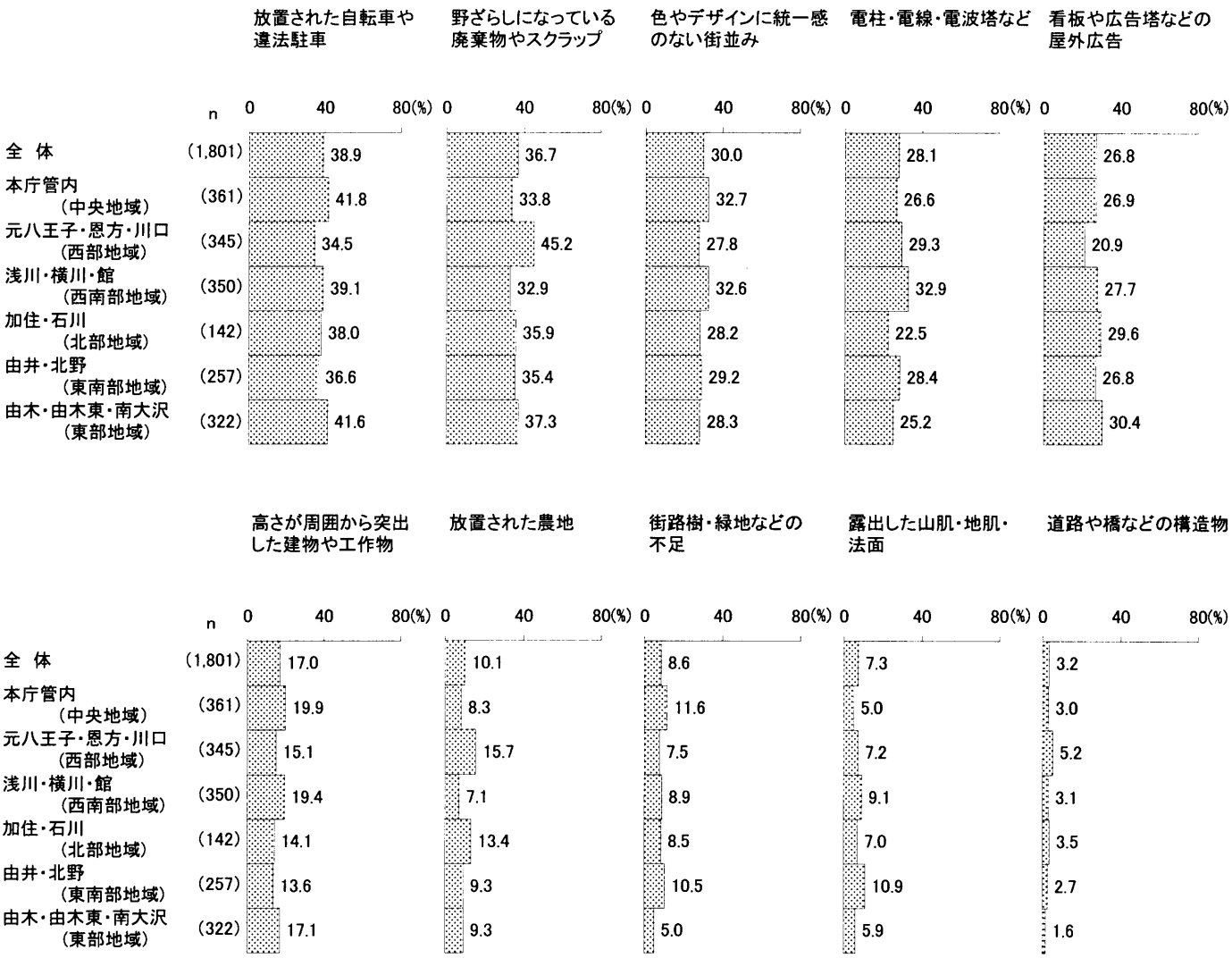
## 図４－３－２　景観を損ねているもの－性別・年齢別




性別にみると、「看板や広告塔などの屋外広告」は女性のほうが4.2ポイント高く、「放置された農地」は男性のほうが4.4ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「野ざらしになっている廃棄物やスクラップ」は概ね年齢が低くなるほど割合が高くなっている。(図４－３－２)

## 図４－３－３　景観を損ねているもの－居住地域別



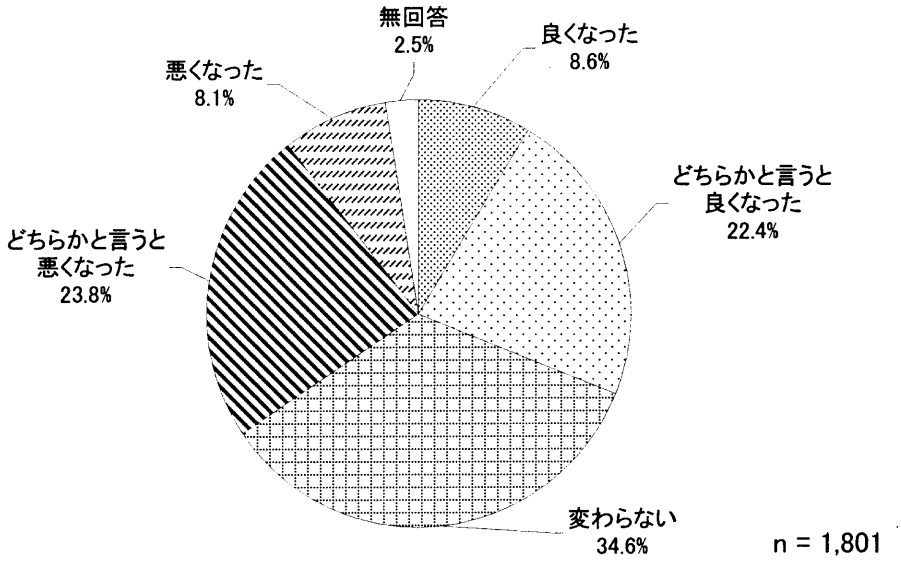

居住地域別にみると、「野ざらしになっている廃棄物やスクラップ」は元八王子・恩方・川口（西部地域）で４割台半ば（45.2%）と比較的割合が高くなっている。（図４－３－３）

## ４－４　景観の変化

*◇「変わらない」が３割台半ば*

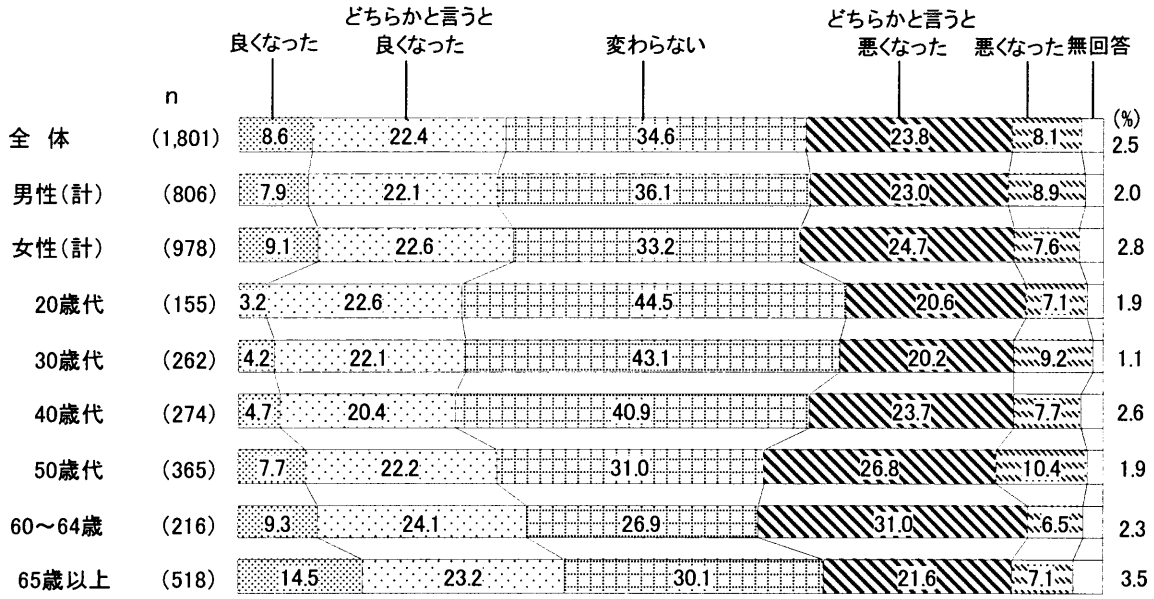
問７　あなたがお住まいの身近な景観は、およそ10年前と比べてどう変わりましたか。（お住まいになって10年以内の方は、住み始めた頃と比べて）（○は１つだけ）

図４－４－１




身近な景観の変化について聞いてみたところ、「変わらない」が３割台半ば（34.6%）と最も高く、「良くなった」（8.6%）と「どちらかと言うと良くなった」（22.4%）を合わせた『良くなった』が31.0%、これに対して「どちらかと言うと悪くなった」（23.8%）と「悪くなった」（8.1%）を合わせた『悪くなった』も31.9%と拮抗している。（図４－４－１）

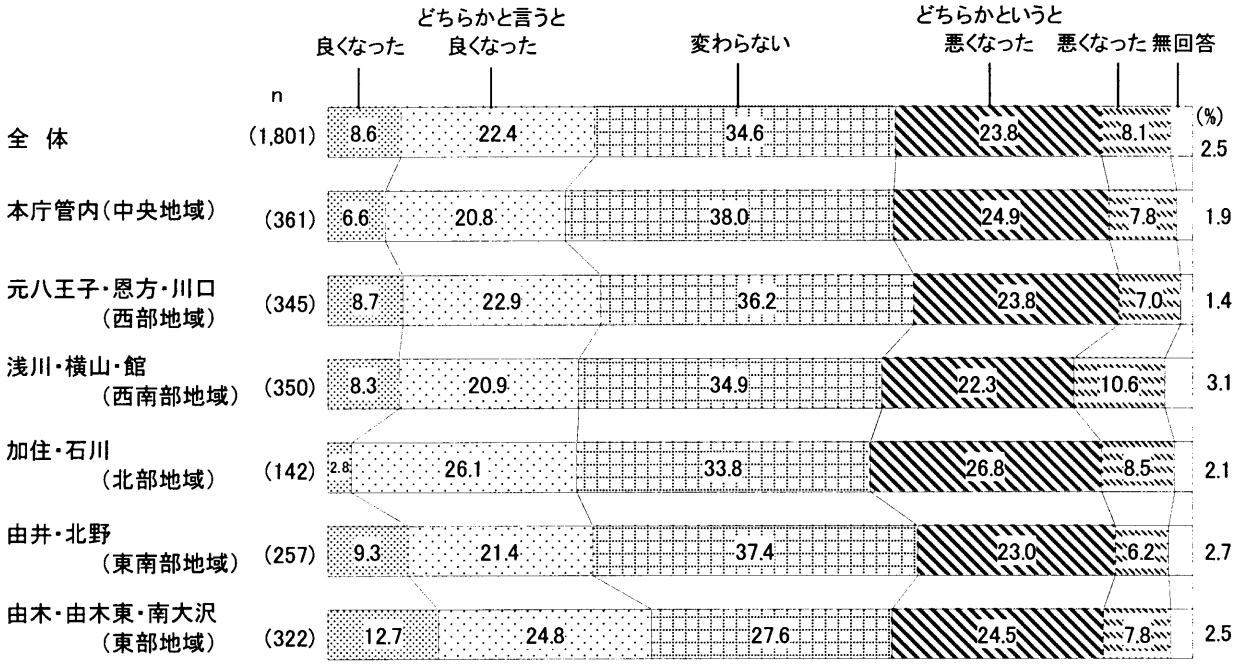
図４－４－２　景観の変化－性別・年齢別




性別にみると、男女ともほぼ同じ傾向となっている。

年齢別にみると、概ね年齢が高くなるほど『良くなった』が増加し、65歳以上では４割弱(37.7%) を占めている。(図４－４－２)

図４－４－３　景観の変化－居住地域別



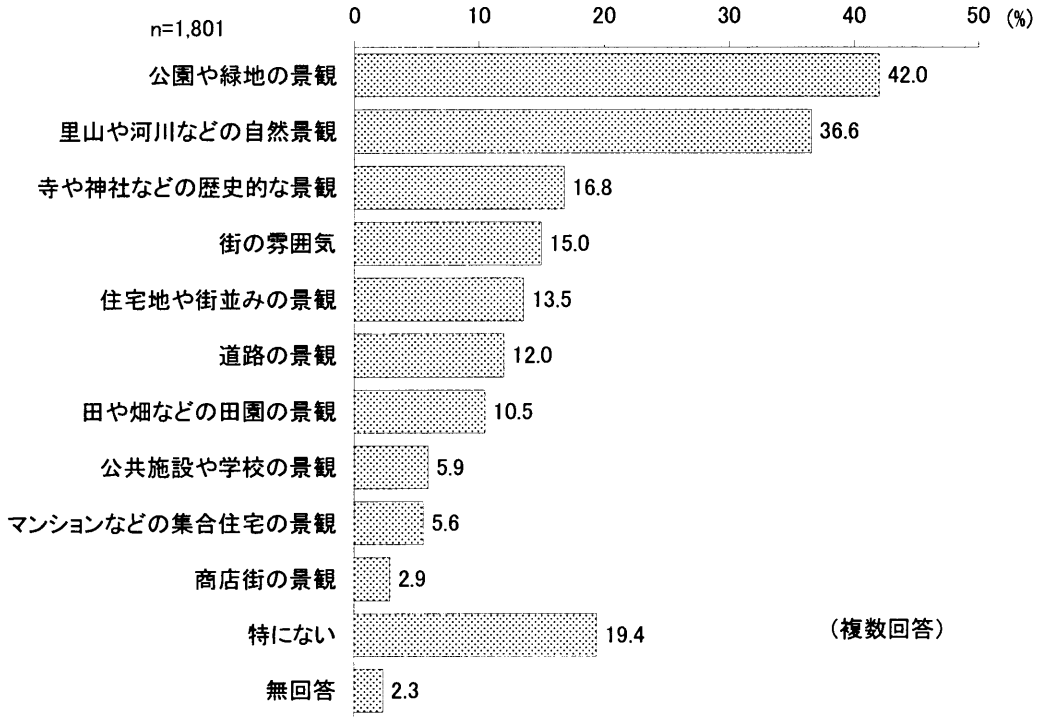

居住地域別にみると、『良くなった』は由木・由木東・南大沢（東部地域）で４割弱（37.5%）と最も高く、本庁管内（中央地域）で３割弱（27.4%）と低くなっている。（図４－４－３）

## ４－５　良いと感じている景観

*◇「公園や緑地の景観」「里山や河川などの自然景観」が突出*

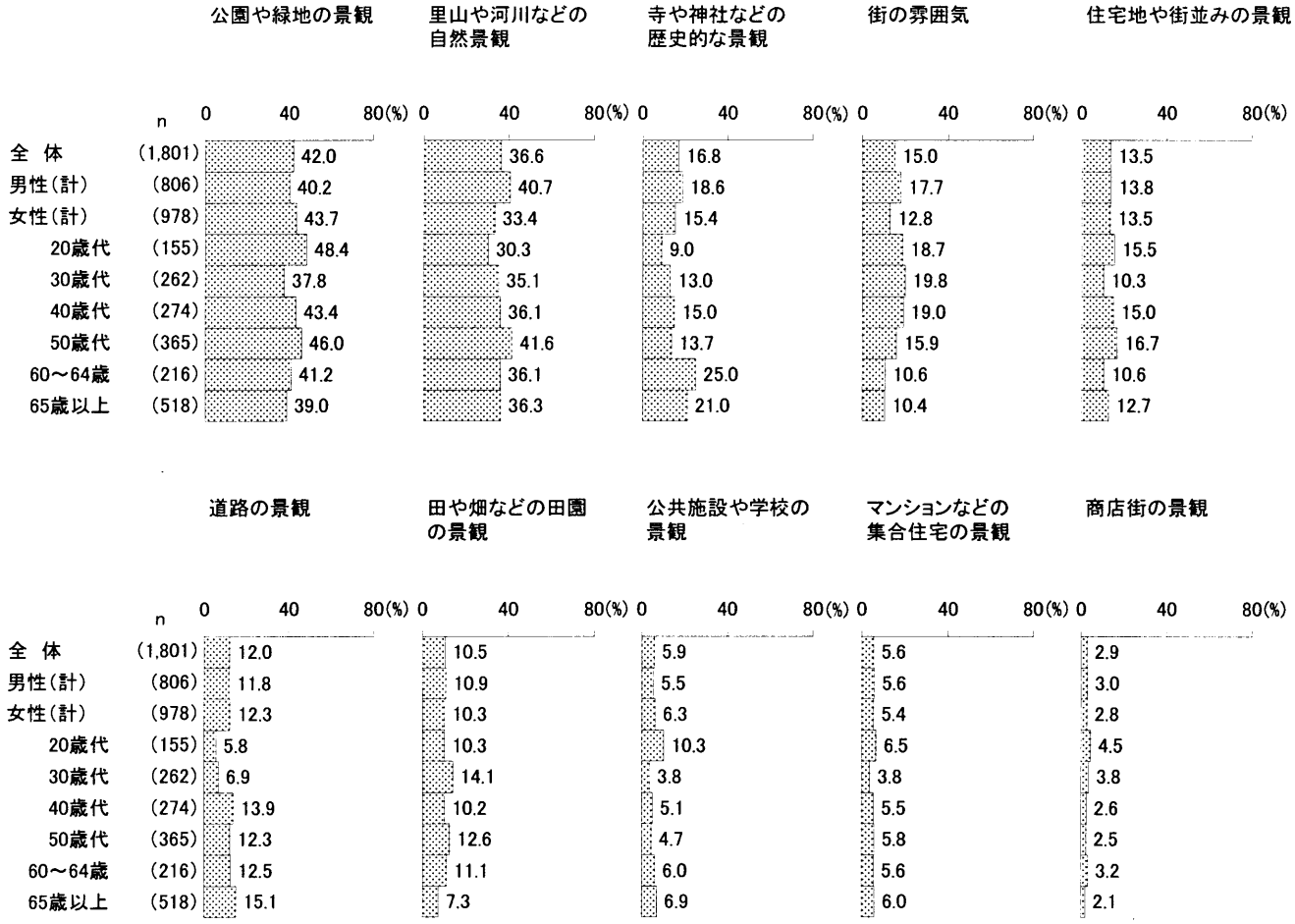
問８　あなたのお住まいの身近な景観について、良いと感じている景観はどれですか。
（○は３つまで）

図４－５－１




良いと感じている景観について聞いたところ、「公園や緑地の景観」が４割強（42.0%）と最も高く、ついで「里山や河川などの自然景観」(36.6%)、「寺や神社などの歴史的な景観」(16.8%)、「街の雰囲気」(15.0%）と続いている。(図４－５－１）

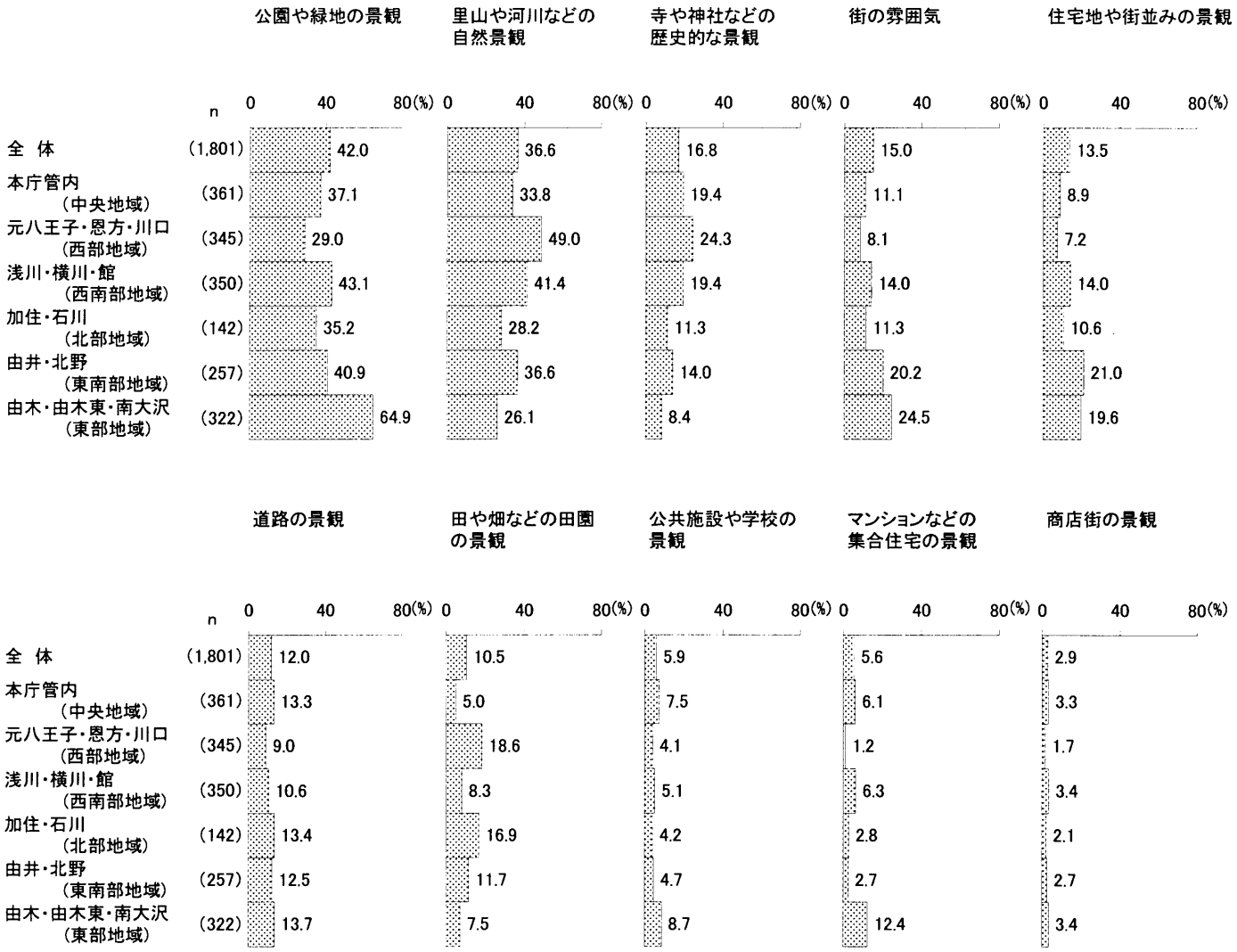
## 図４－５－２　良いと感じている景観－性別・年齢別




性別にみると、「公園や緑地の景観」は女性のほうが3.5ポイント高く、「里山や河川などの自然景観」は男性のほうが7.3ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「寺や神社などの歴史的な景観」は年齢が高くなるほど割合が高くなり、「街の雰囲気」は年齢が高くなるほど割合が低くなる傾向がある。（図４－５－２）

## 図４－５－３　良いと感じている景観－居住地域別



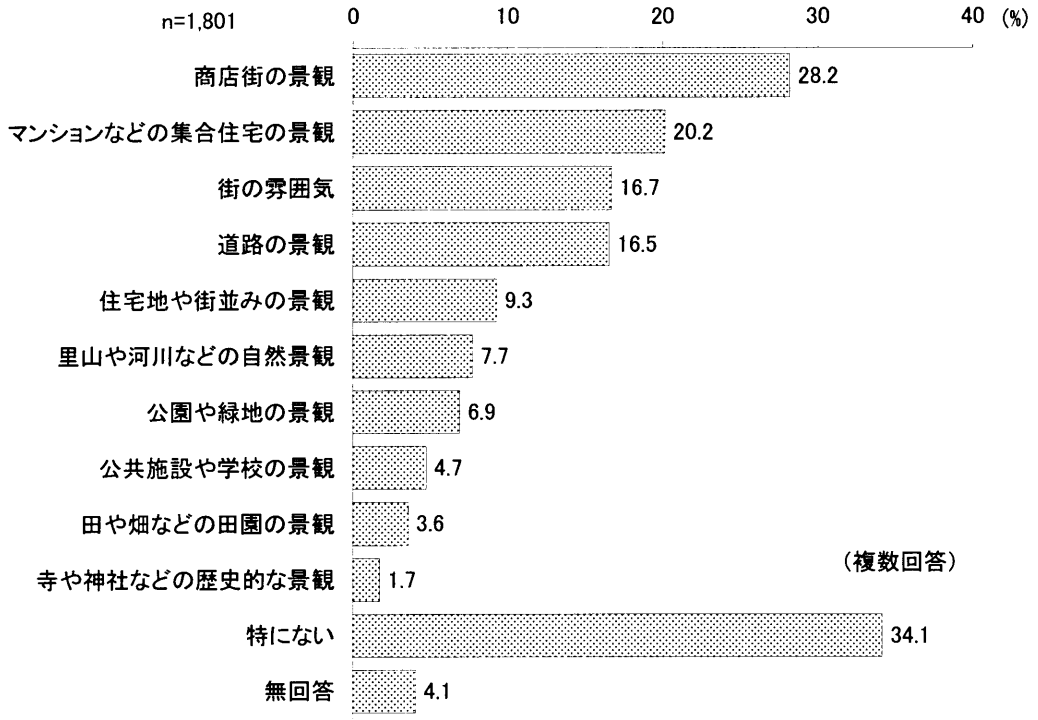

居住地域別にみると、「公園や緑地の景観」は由木・由木東・南大沢（東部地域）で６割台半ば（64.9%）、「里山や河川などの自然景観」は元八王子・恩方・川口（西部地域）で５割近く（49.0%）と高くなっている。（図４－５－３）

## ４－６　良くないと感じている景観

*◇「商店街の景観」が３割近くで突出*

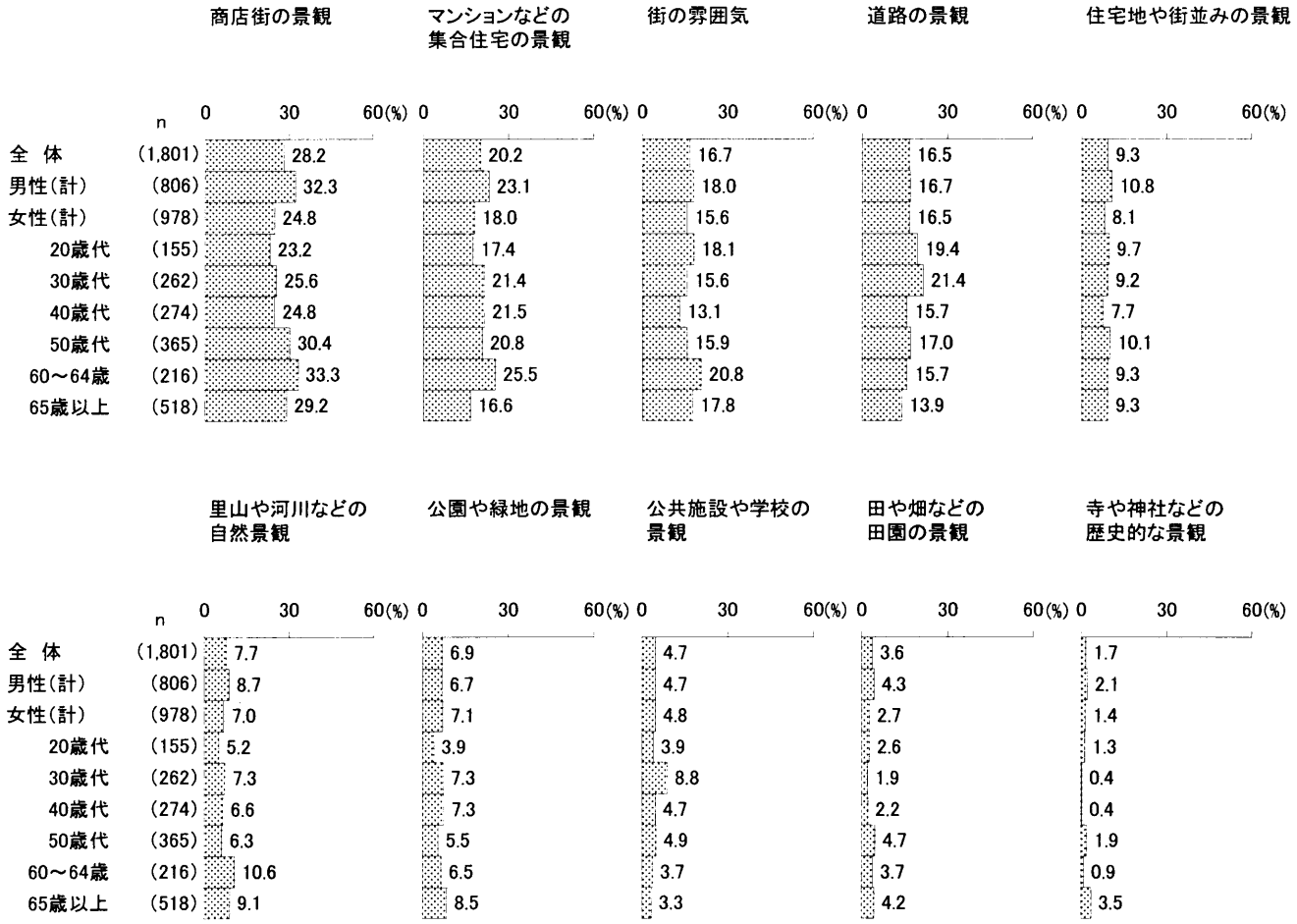
問９　あなたのお住まいの身近な景観について、良くないと感じている景観はどれですか。
（○は３つまで）

図４－６－１




良くないと感じている景観について聞いたところ、「商店街の景観」が３割近く（28.2%）と最も高く、ついで「マンションなどの集合住宅の景観」（20.2%）、「街の雰囲気」（16.7%）、「道路の景観」（16.5%）と続いている。（図４－６－１）

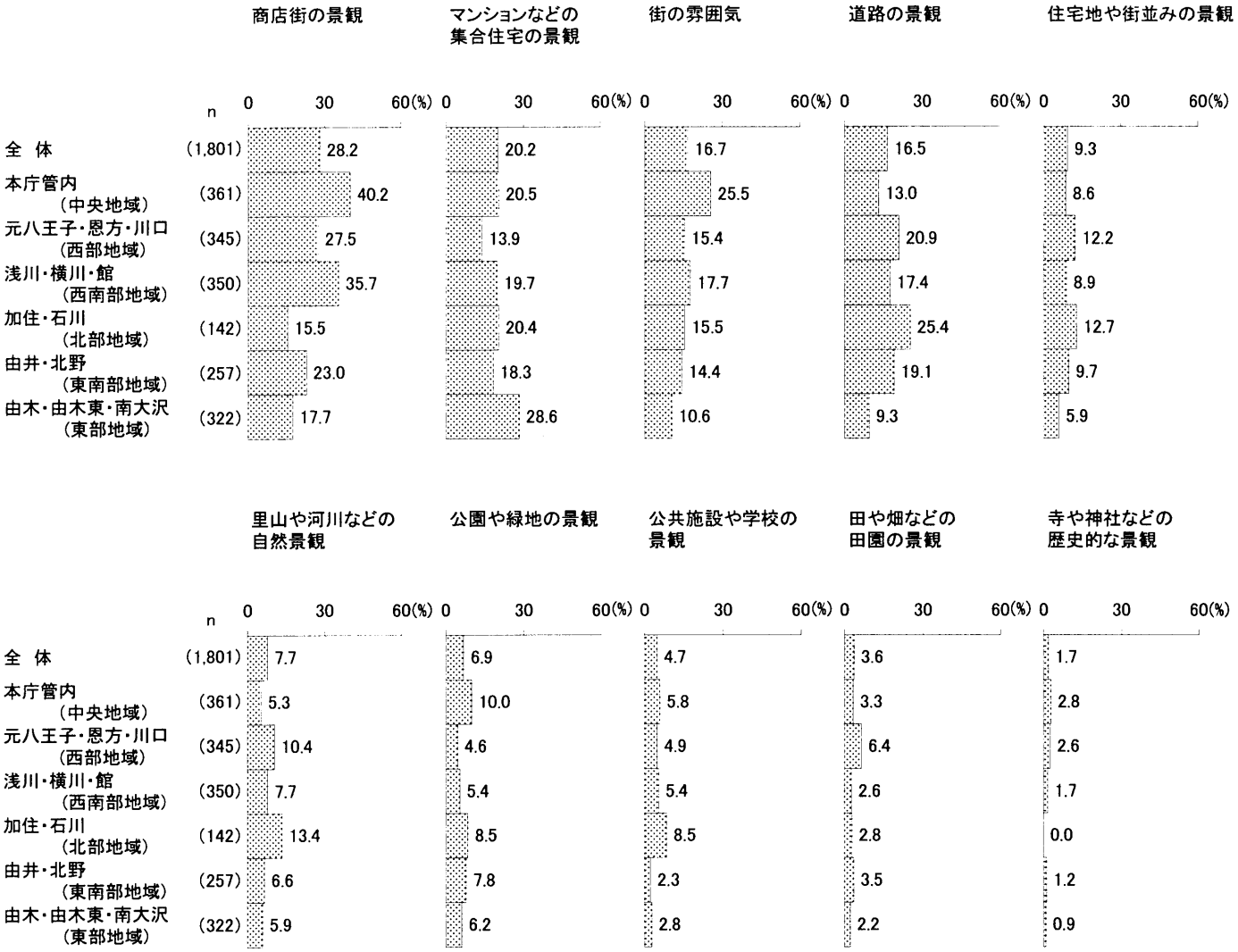
## 図４－６－２　良くないと感じている景観－性別・年齢別




性別にみると、男性のほうが「商店街の景観」で7.5ポイント、「マンションなどの集合住宅の景観」で5.1ポイント高くなっている。

年齢別には大きな差はみられない。（図４－６－２）

## 図４－６－３　良くないと感じている景観－居住地域別



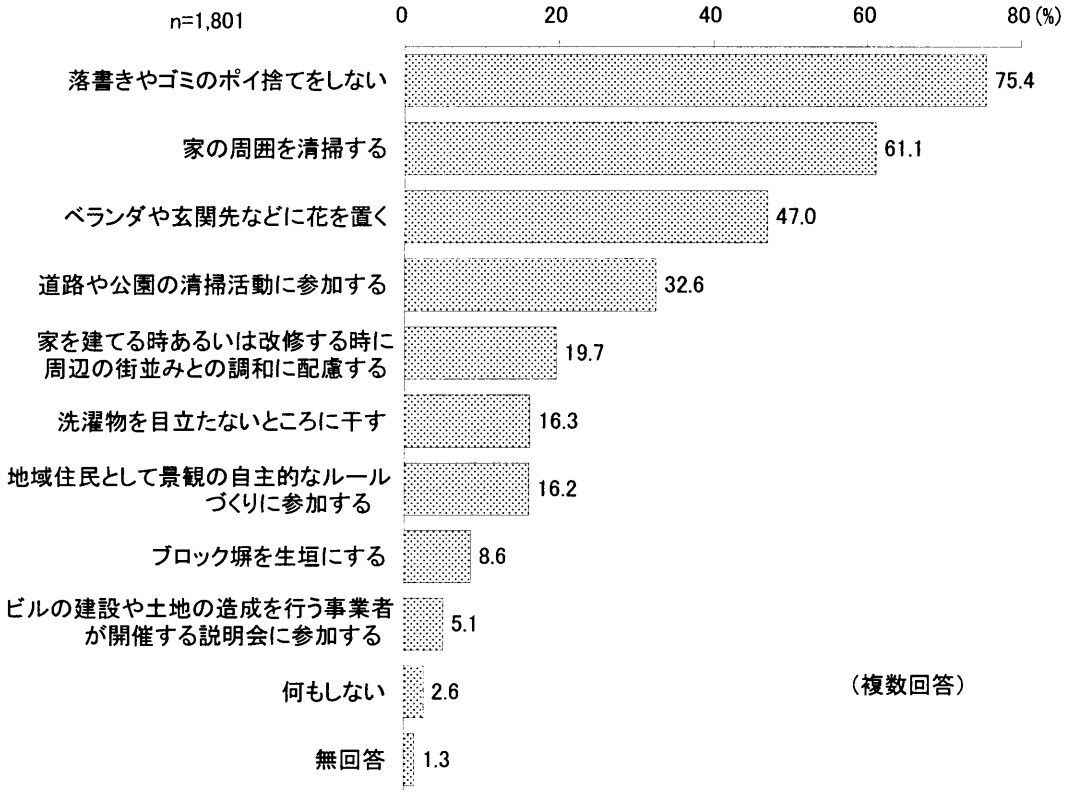

居住地域別にみると、「商店街の景観」は本庁管内（中央地域）で約４割（40.2%）と最も高くなっている。（図４－６－３）

## ４－７　身近な景観づくりについて

*◇「落書きやゴミのポイ捨てをしない」が７割台半ば*

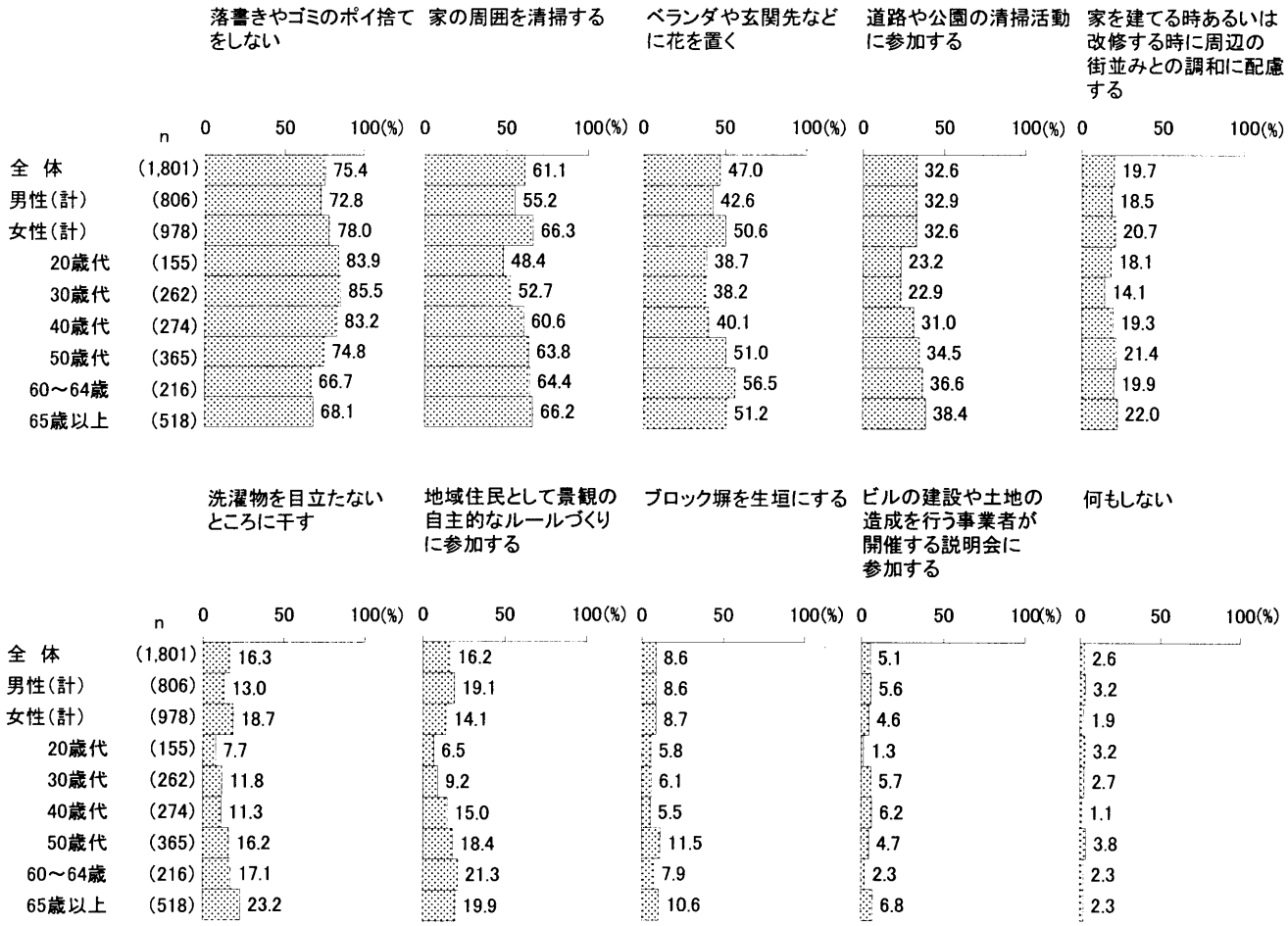
問10　お住まいの身近な景観づくりについて、あなたならばどのようなことができますか。
（○はいくつでも）

図４－７－１




景観づくりについてできることを聞いたところ、「落書きやゴミのポイ捨てをしない」が７割台半ば（75.4%）と最も高く、ついで「家の周囲を清掃する」（61.1%）、「ベランダや玄関先などに花を置く」（47.0%）、「道路や公園の清掃活動に参加する」（32.6%）と続いている。（図４－７－１）

## 図４－７－２　身近な景観づくりについて－性別・年齢別

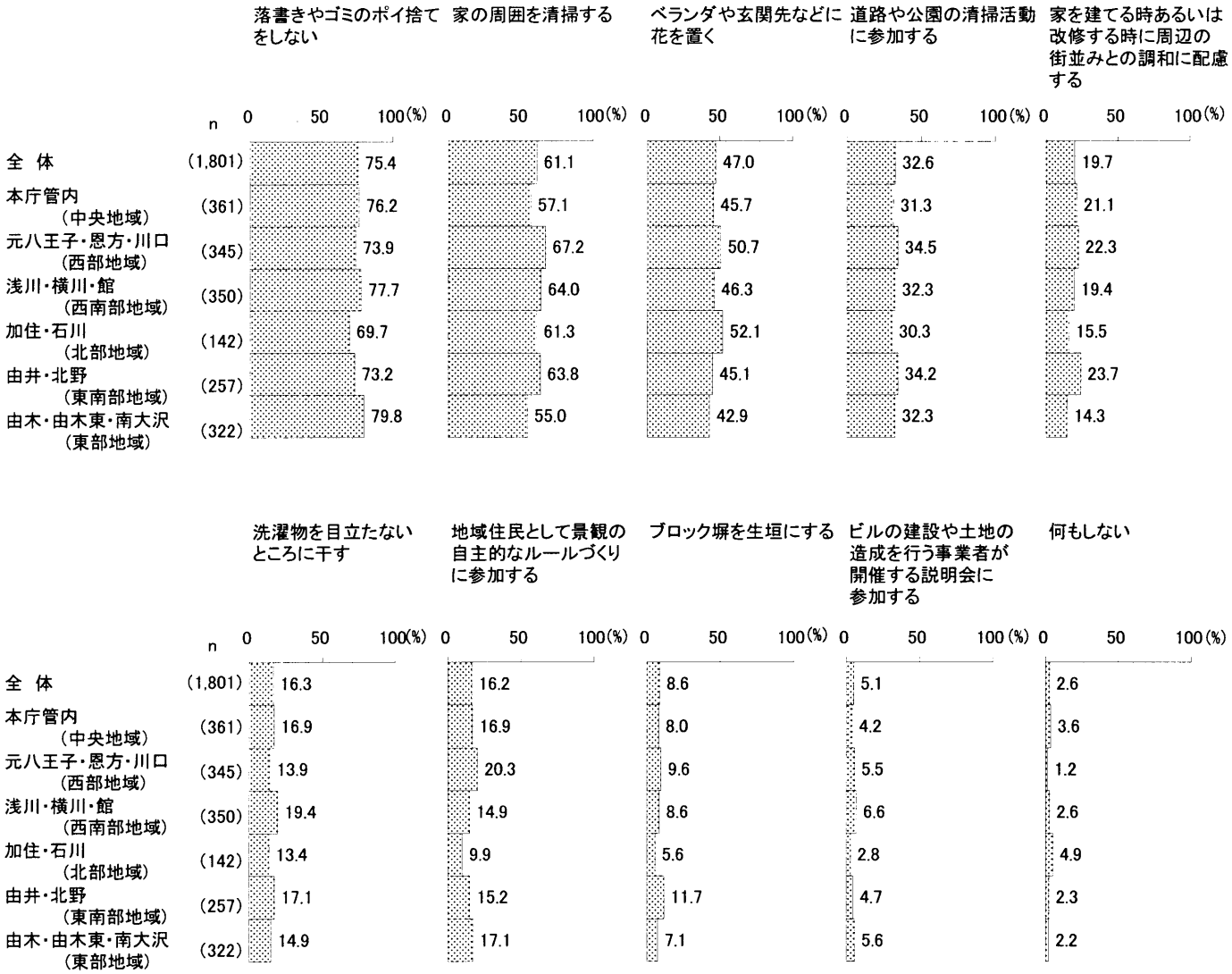



性別にみると、女性のほうが「家の周囲を清掃する」が11.1ポイント、「ベランダや玄関先などに花を置く」が8.0ポイント高く、男性のほうが「地域住民として景観の自主的なルールづくりに参加する」が5.0ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「家の周囲を清掃する」は年齢が高くなるほど割合が増加する傾向がみられる。

（図４－７－２）

## 図４－７－３　身近な景観づくりについて－居住地域別




居住地域別にみると、「落書きやゴミのポイ捨てをしない」は由木・由木東・南大沢（東部地域）が８割弱（79.8%）と最も高く、加住・石川（北部地域）が７割弱（69.7%）と最も低くなっている。

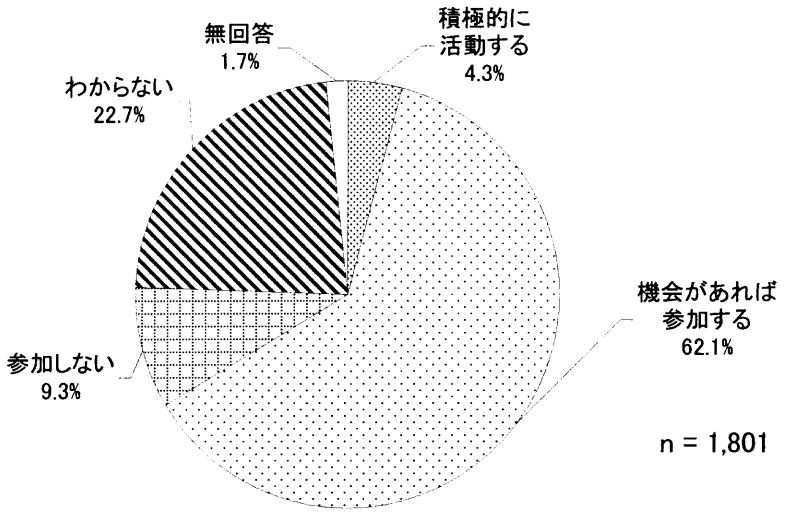
（図４－７－３）

## ４－８　景観向上の取り組みへの参加

*◇「機会があれば参加する」が６割強*

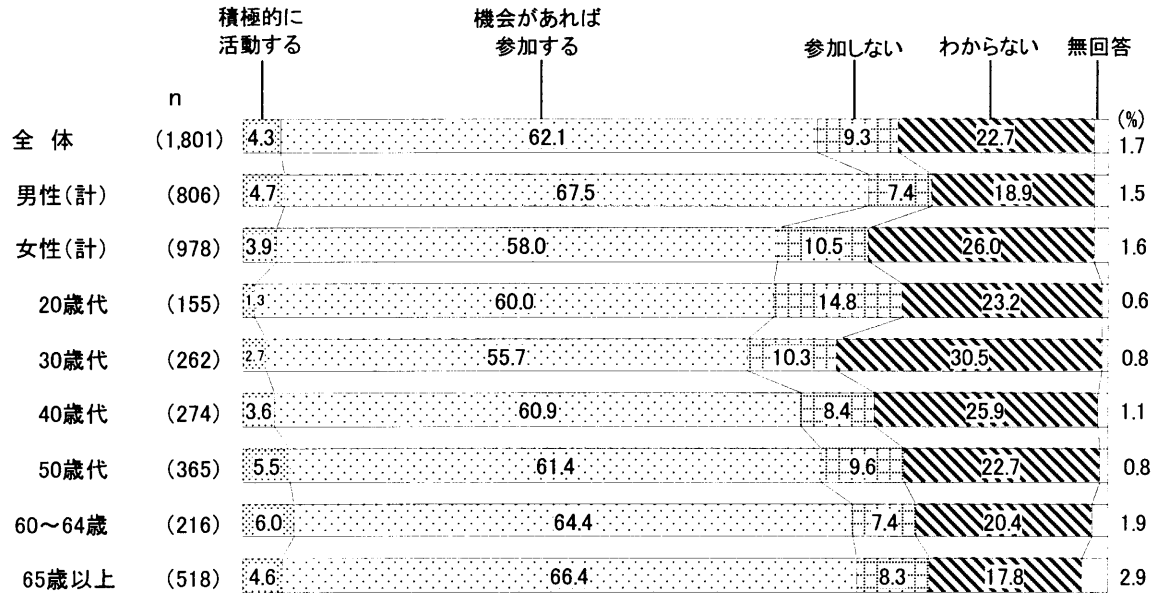
問11　あなたは、身近な地域で景観の向上に関する取り組みがあれば参加したいと思いますか。
（○は１つだけ）

図４－８－１




景観向上の取り組みへの参加について聞いたところ、「機会があれば参加する」が６割強（62.1%）と最も高く、「積極的に活動する」（4.3%）を合わせた『参加する』は６割台半ば（66.4%）を占め、「参加しない」は１割弱（9.3%）となっている。（図４－８－１）

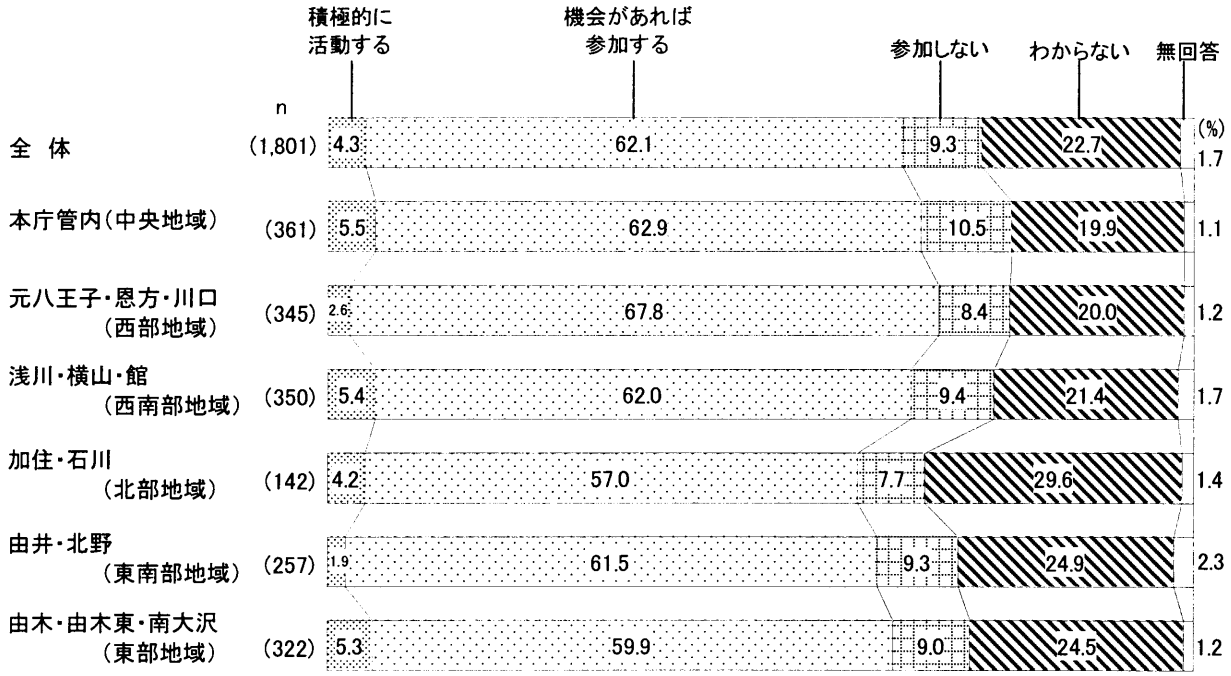
図４－８－２　景観向上の取り組みへの参加－性別・年齢別




性別にみると、男性のほうが「機会があれば参加する」が9.5ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「機会があれば参加する」は30歳代を除いて、年齢が高くなるほど割合が高くなっている。（図４－８－２）

図４－８－３　景観向上の取り組みへの参加－居住地域別



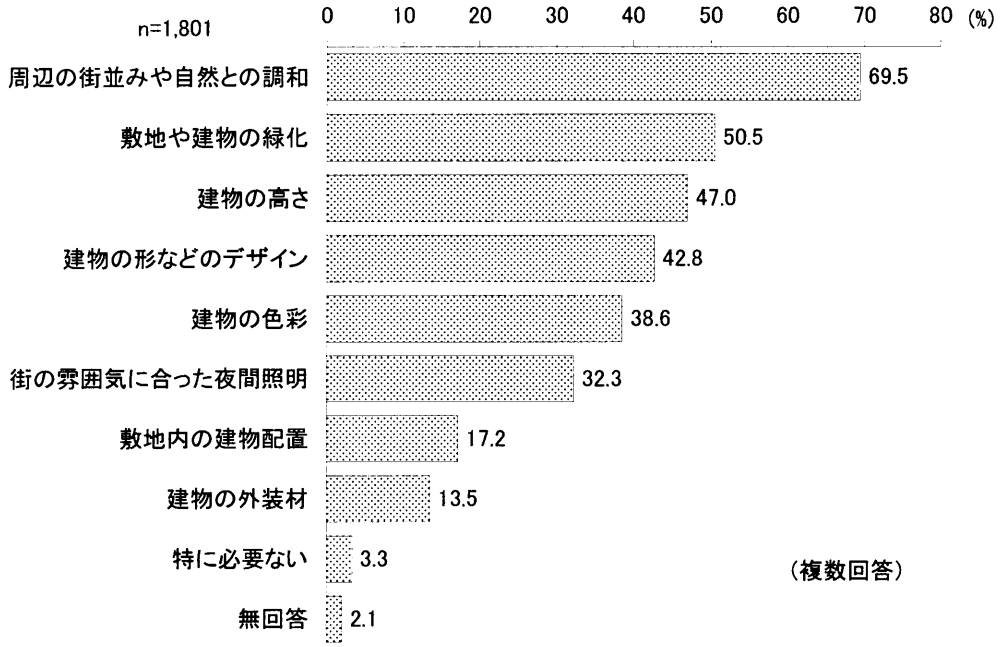

居住地域別にみると、「機会があれば参加する」は元八王子・恩方・川口（西部地域）で７割弱(67.8%）と最も高くなっている。(図４－８－３)

## ４－９　建物を建設する際の配慮

*◇「周辺の街並みや自然との調和」が７割弱で突出*

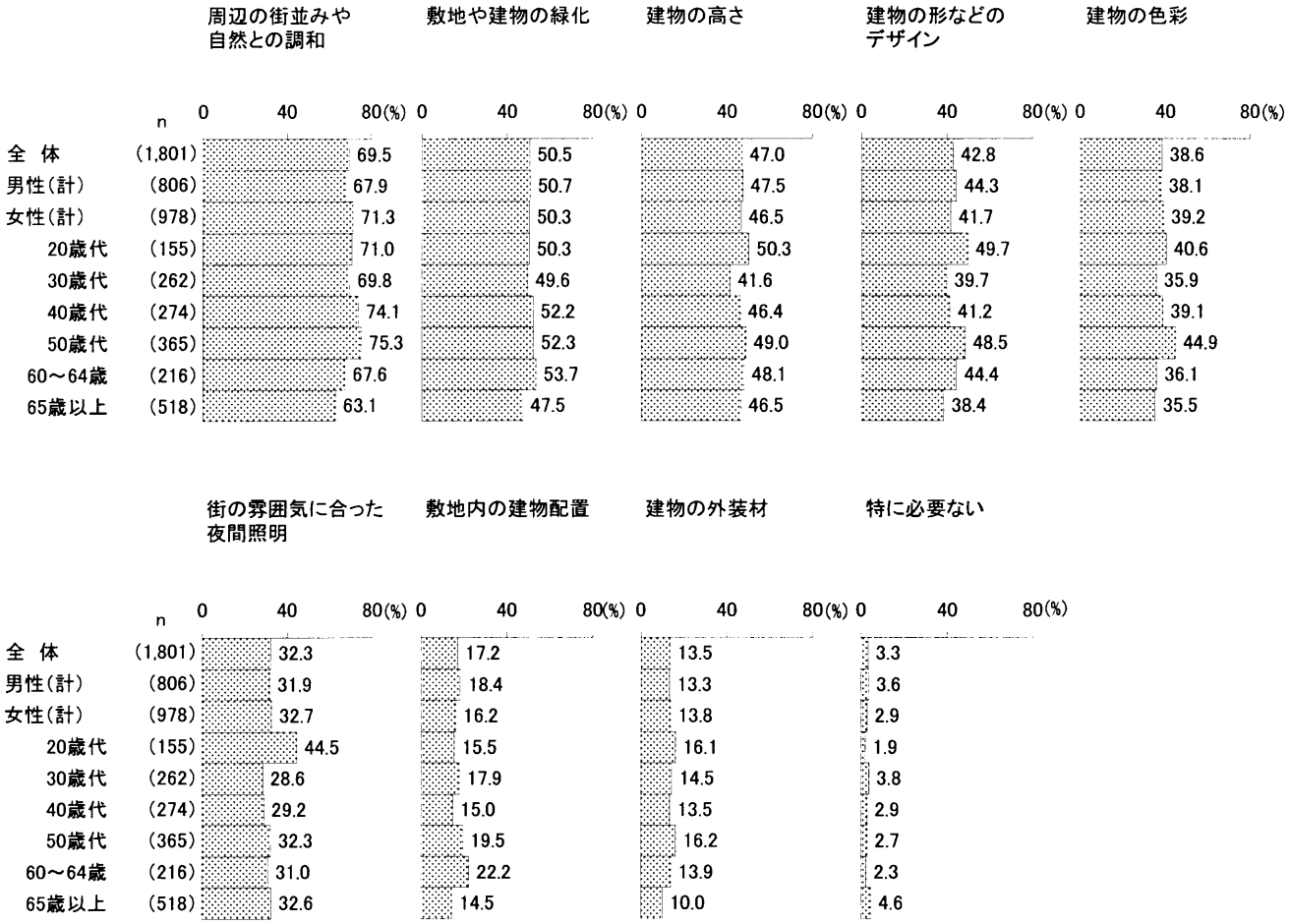
問12　大規模な建物を建設する際に、どのようなことに配慮すれば魅力的な景観づくりができると思いますか。（○はいくつでも）

図４－９－１




大規模な建物を建設する際の配慮について聞いたところ、「周辺の街並みや自然との調和」が７割弱（69.5%）と最も高く、以下、「敷地や建物の緑化」（50.5%）、「建物の高さ」（47.0%）、「建物の形などのデザイン」（42.8%）の順で続いている。（図４－９－１）

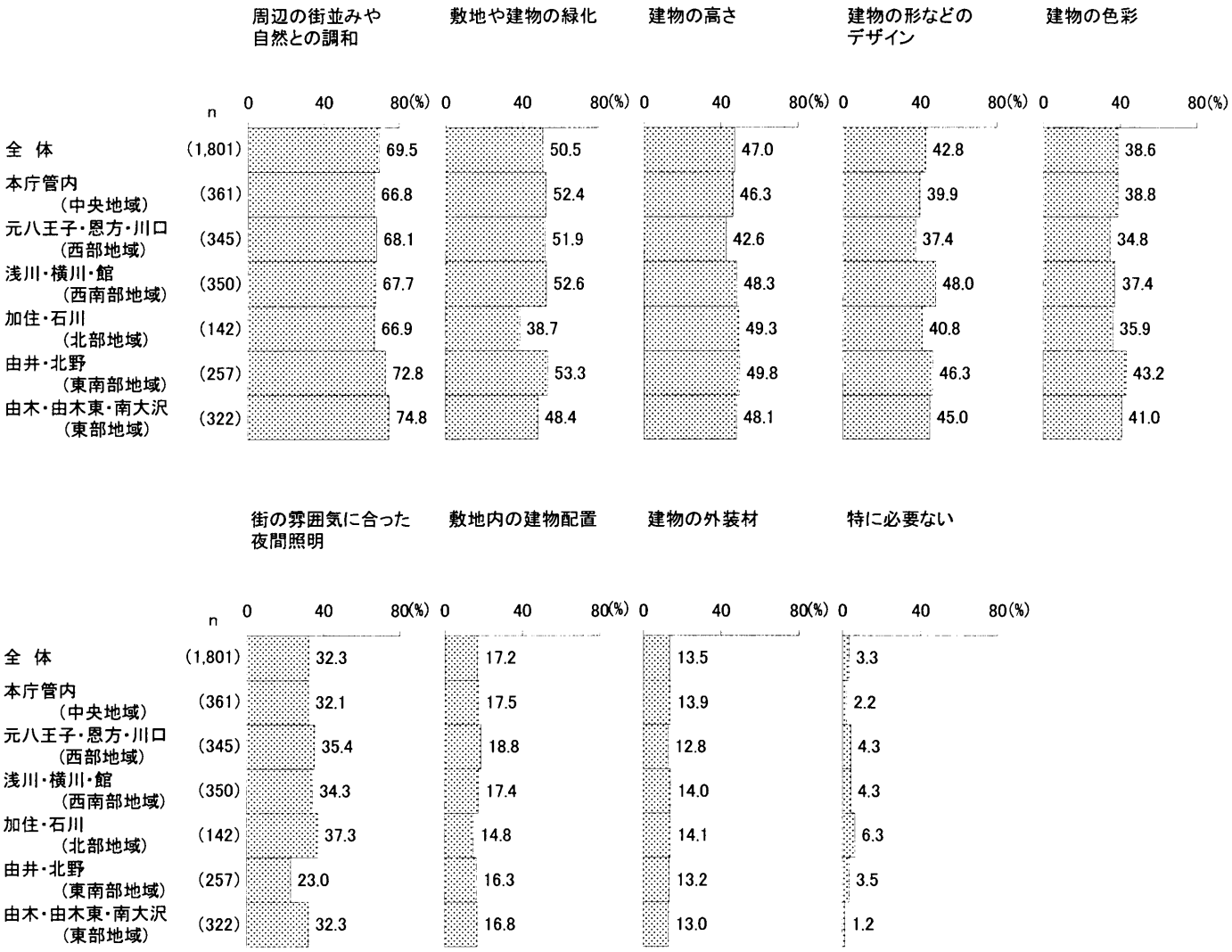
## 図４－９－２　建物を建設する際の配慮－性別・年齢別




性別に大きな差はみられない。

年齢別にみると、20歳代で「街の雰囲気に合った夜間照明」が４割台半ば（44.5%）と比較的高くなっている。（図４－９－２）

## 図４－９－３　建物を建設する際の配慮－居住地域別



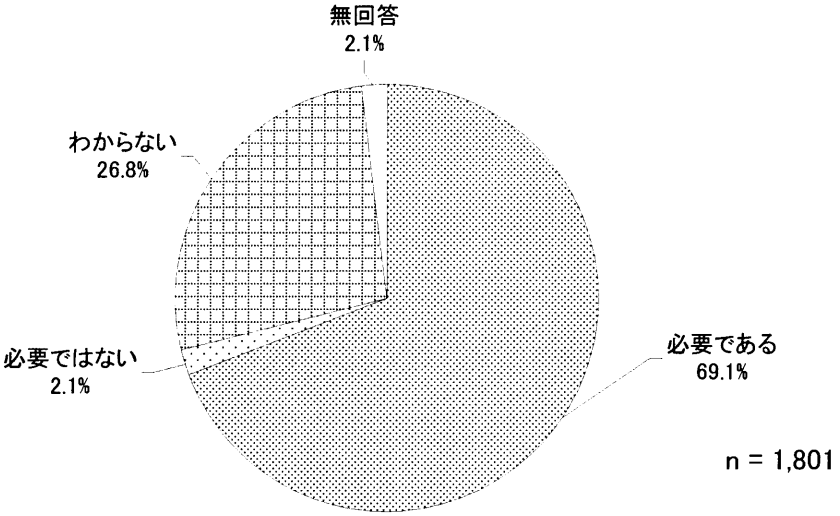

居住地域別にみると、「敷地や建物の緑化」は加住・石川（北部地域）で４割弱（38.7%）と他の地域に比べ、低くなっている。（図４－９－３）

## 4－10　市独自の景観形成について

*◇「必要である」が7割弱*

問13　八王子市全域は景観法に基づく東京都の景観計画及び景観条例の適用を受けています。
今後、八王子市独自の景観形成を進めていくことについてどのように思いますか。
（○は１つだけ）

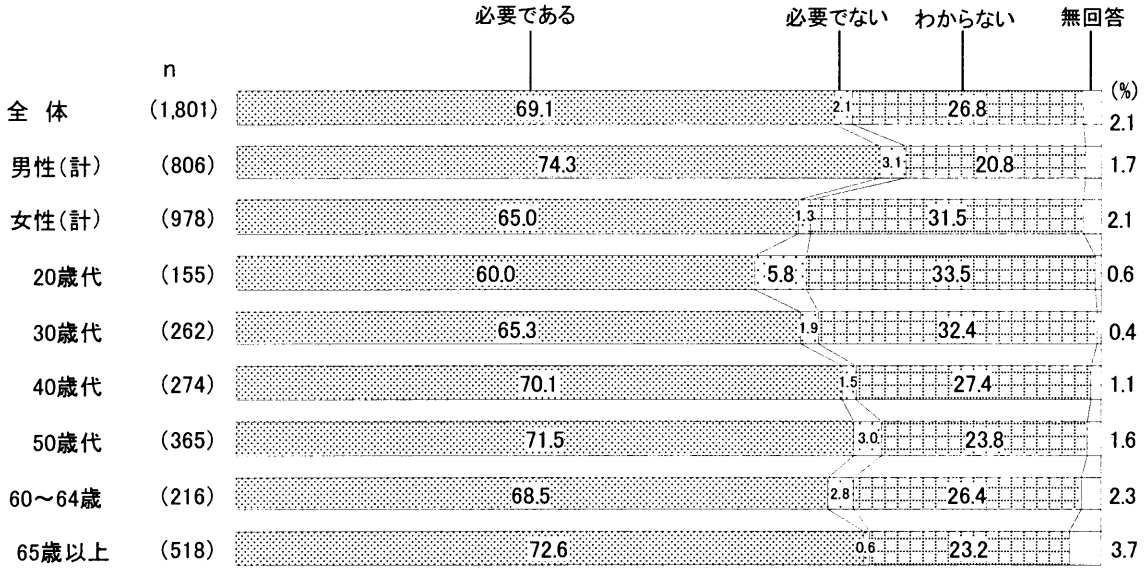
図４－10－１




八王子市独自の景観形成を進めていくことについて聞いたところ、「必要である」が７割弱（69.1%）と最も高く、以下、「わからない」（26.8%）、「必要ではない」（2.1%）となっている。

（図４－10－１）

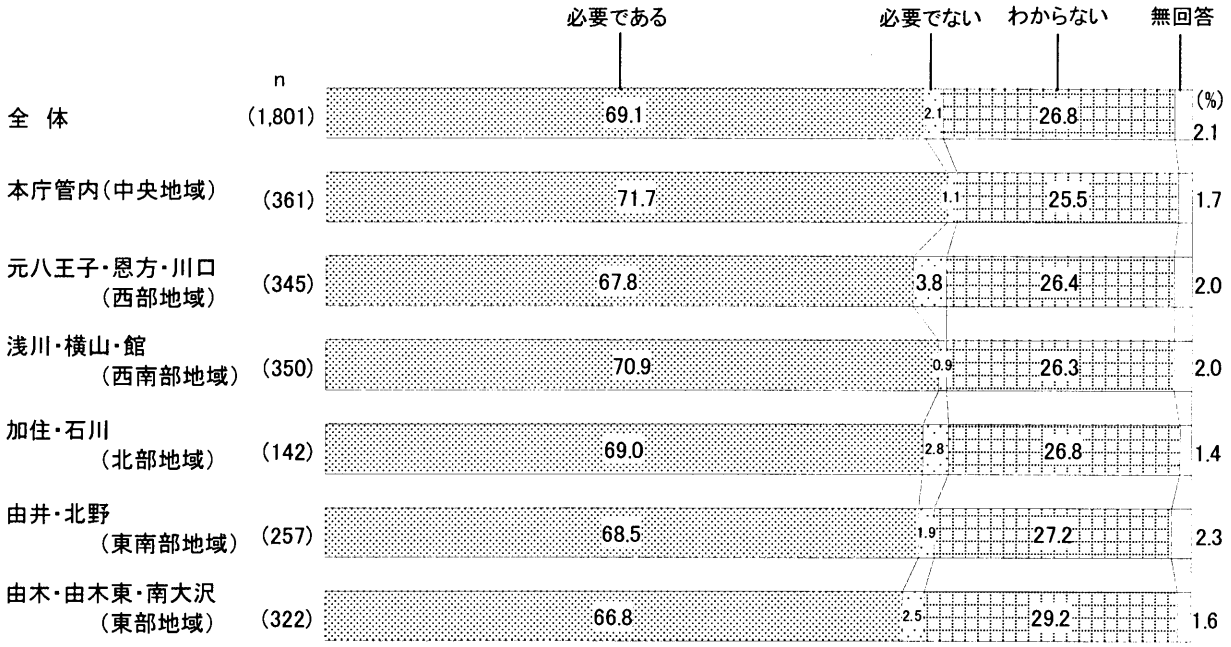
図４－10－２　市独自の景観形成について－性別・年齢別




性別にみると、男性のほうが「必要である」が9.3ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「必要である」は概ね年齢が高くなるほど割合が高くなり、65歳以上は７割強(72.6%) となっている。(図４－10－２)

図４－10－３　市独自の景観形成について－居住地域別



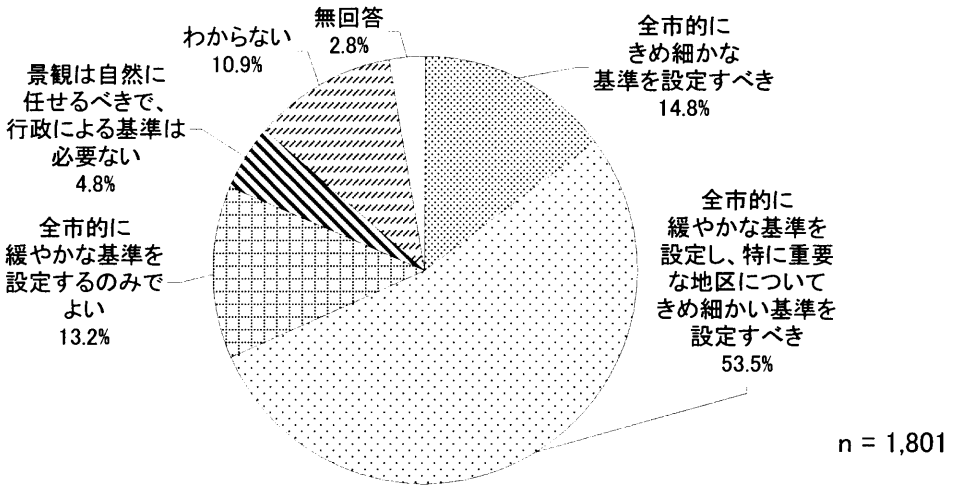

居住地域別には大きな差はみられない。(図４－10－３)

## ４－11　景観に関する基準の設定

*◇「全市的に緩やかな基準を設定し、特に重要な地区についてきめ細かい基準を設定すべき」が５割強*

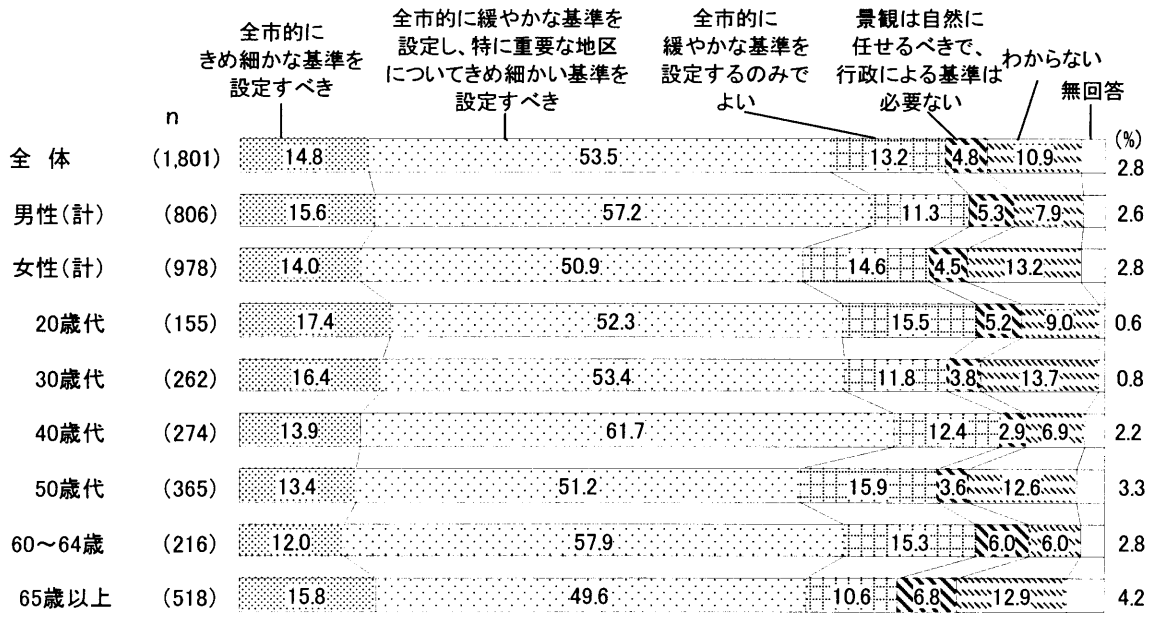
問14　美しい街並みをつくっていくための景観に関する基準は、どのように設定すべきだと考えますか。（○は１つだけ）

図４－11－１




景観に関する基準の設定について聞いたところ、「全市的に緩やかな基準を設定し、特に重要な地区についてきめ細かい基準を設定すべき」が５割強（53.5%）と最も高く、以下、「全市的にきめ細かな基準を設定すべき」（14.8%）、「全市的に緩やかな基準を設定するのみでよい」（13.2%）、「景観は自然に任せるべきで、行政による基準は必要ない」（4.8%）の順となっている。（図４－11－１）

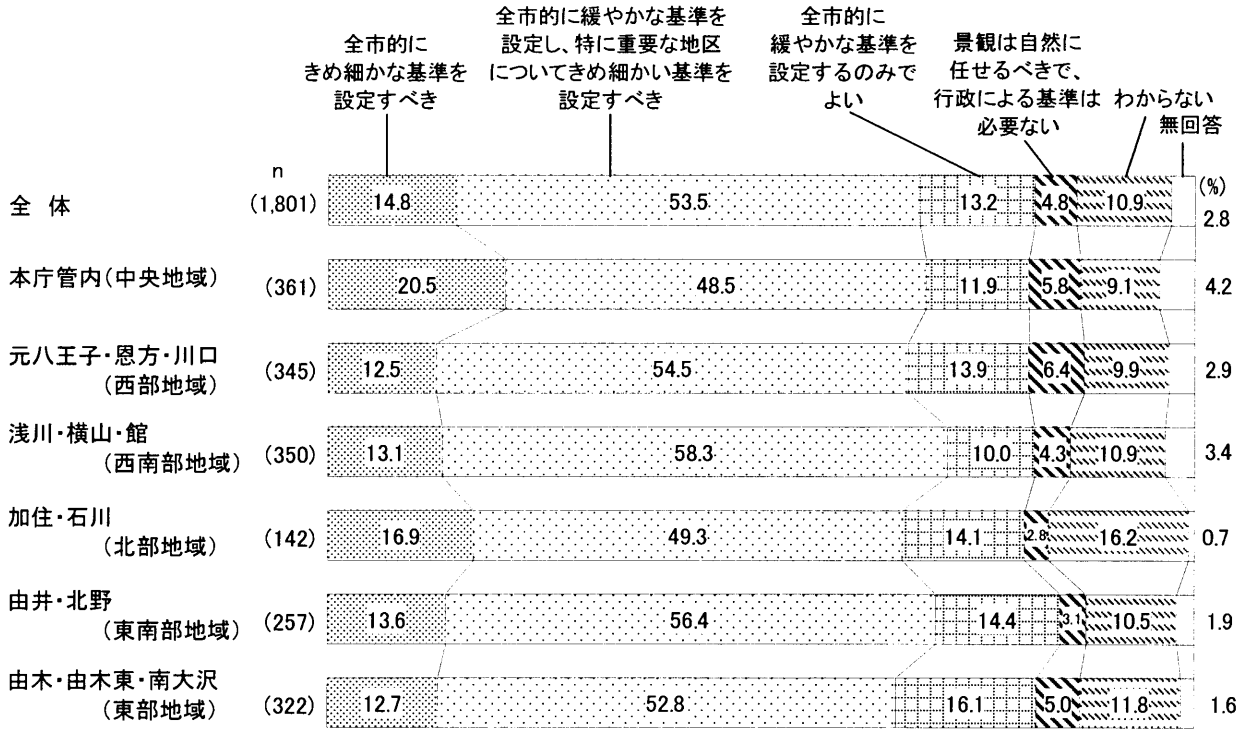
図４－11－２　景観に関する基準の設定－性別・年齢別




性別にみると、男性のほうが「全市的に緩やかな基準を設定し、特に重要な地区についてきめ細かい基準を設定すべき」が6.3ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「全市的にきめ細かな基準を設定すべき」は概ね年齢が低いほど割合が高くなる傾向がある。（図４－11－２）

図４－11－３　景観に関する基準の設定－居住地域別



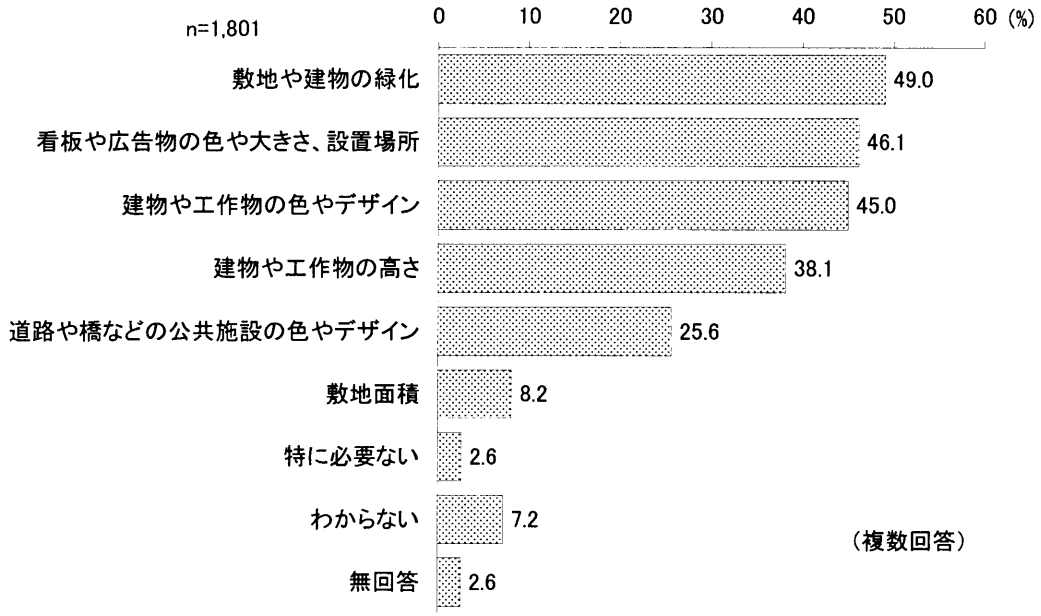

居住地域別にみると、「全市的にきめ細かな基準を設定すべき」は本庁管内（中央地域）で約２割（20.5%）と高くなっている。（図４－11－３）

## ４－12　美しい街並みづくりのための基準

*◇「敷地や建物の緑化」「看板や広告物の色や大きさ、設置場所」「建物や工作物の色やデザイン」の３項目が４割以上*

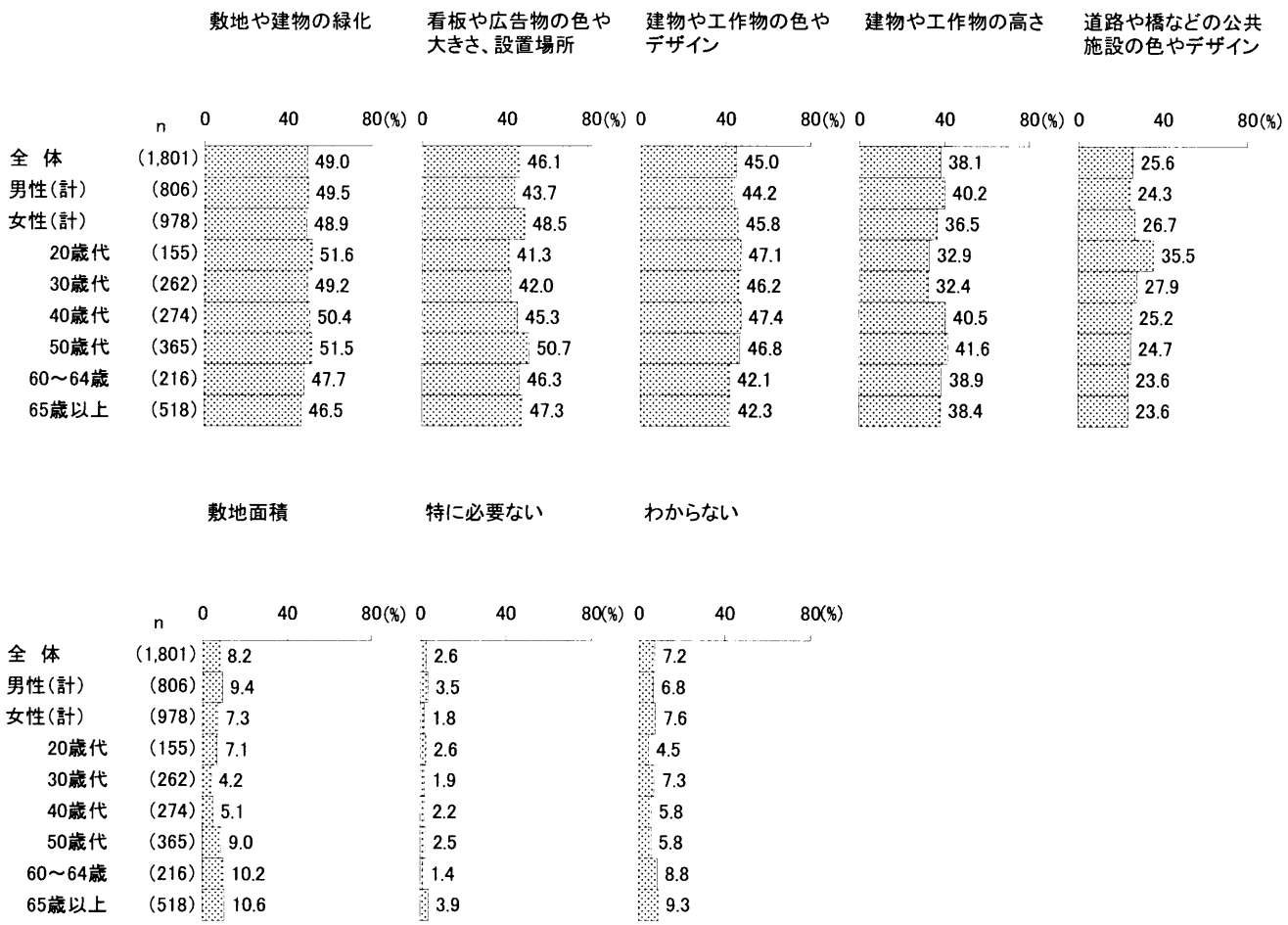
問15　美しい街並みをつくっていくためには、特にどのような項目についての基準が必要だと思いますか。（○は３つまで）

図４－12－１




美しい街並みをつくっていくために基準が必要な項目について聞いたところ、「敷地や建物の緑化」（49.0%）、「看板や広告物の色や大きさ、設置場所」（46.1%）、「建物や工作物の色やデザイン」（45.0%）の３項目が４割以上で高い。ついで「建物や工作物の高さ」（38.1%）、「道路や橋などの公共施設の色やデザイン」（25.6%）、「敷地面積」（8.2%）と続いている。（図４－12－１）

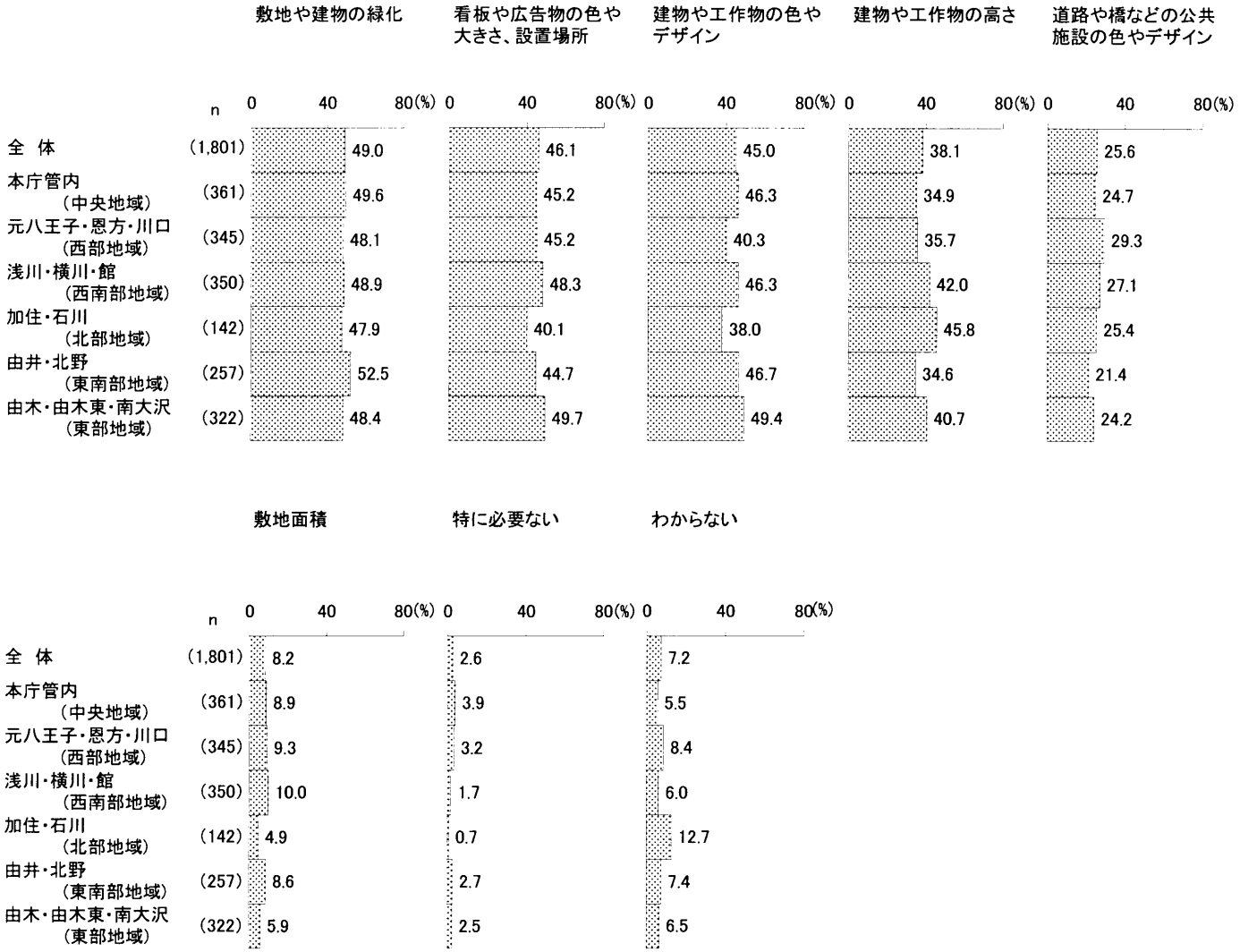
## 図４－12－２　美しい街並みづくりのための基準－性別・年齢別




性別にみると、「看板や広告物の色や大きさ、設置場所」は女性のほうが4.8ポイント高く、「建物や工作物の高さ」は男性のほうが3.7ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「看板や広告物の色や大きさ、設置場所」は50歳代では５割に達しており、「道路や橋などの公共施設の色やデザイン」は20歳代で割合が比較的高くなっている。（図４－12－２）

## 図４－12－３　美しい街並みづくりのための基準－居住地域別



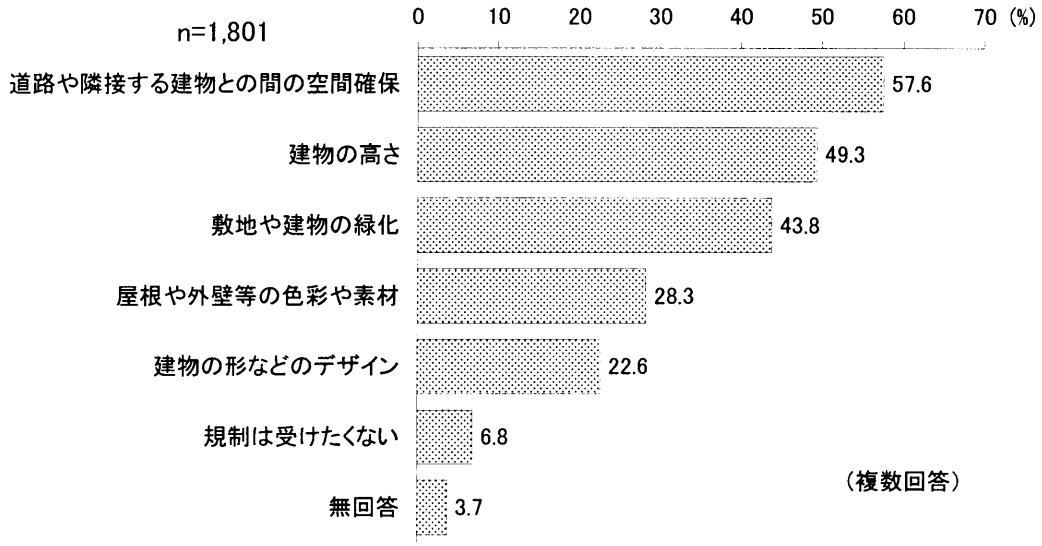

居住地域別にみると、「敷地や建物の緑化」は由井・北野（東南部地域）で５割強（52.5%）と最も高くなっている。（図４－12－３）

## 4－13　家やビルを建てる時の規制

*◇「道路や隣接する建物との間の空間確保」が６割弱*

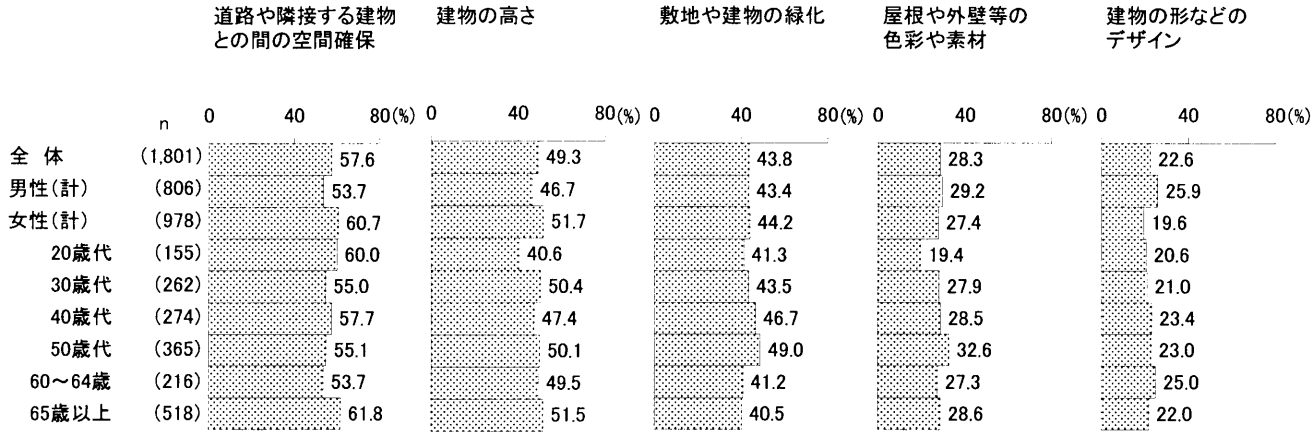
問16　あなたは、家やビルを建てる時に規制がかかるとしたら、何に関するものならば受け入れることができますか。（○はいくつでも）

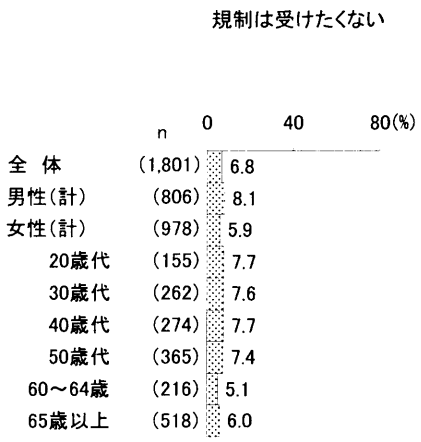
図４－13－１




家やビルを建てる際に受け入れられる規制について聞いたところ、「道路や隣接する建物との間の空間確保」が６割弱（57.6%）と最も高く、以下、「建物の高さ」（49.3%）、「敷地や建物の緑化」（43.8%）、「屋根や外壁等の色彩や素材」（28.3%）の順で続いている。（図４－13－１）

## 図４－13－２　家やビルを建てる時の規制－性別・年齢別

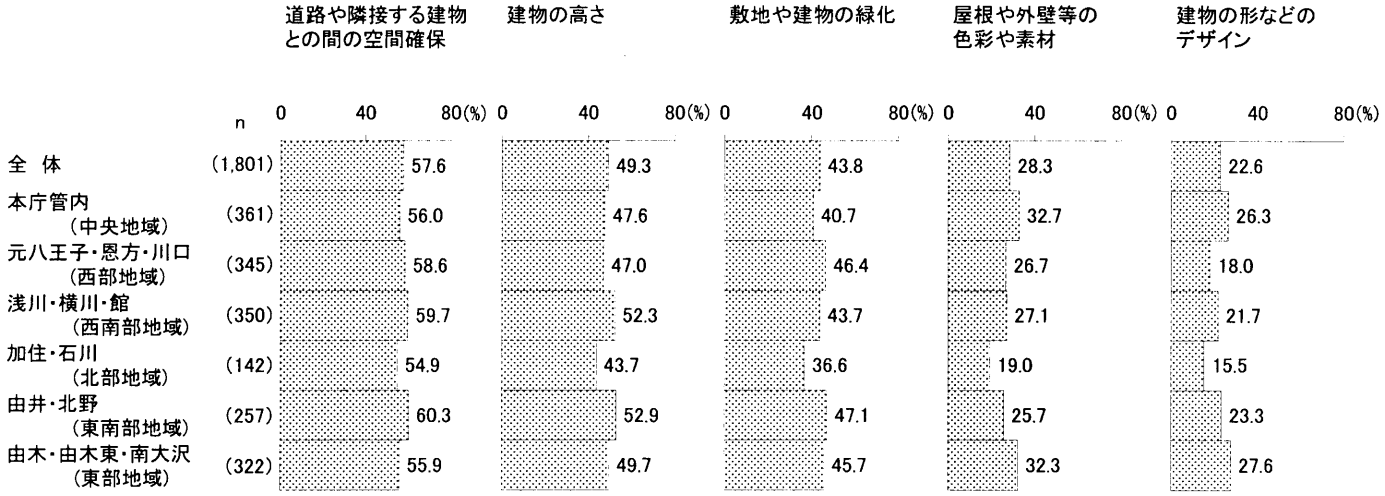


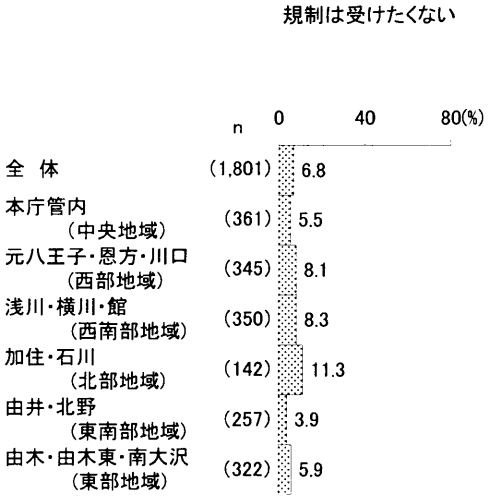




性別にみると、女性のほうが「道路や隣接する建物との間の空間確保」で7.0ポイント、「建物の高さ」で5.0ポイント高く、男性のほうが「建物の形などのデザイン」で6.3ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「屋根や外壁等の色彩や素材」は20歳代で２割弱（19.4%）と比較的低くなっている。（図４－13－２）

## 図４－13－３　家やビルを建てる時の規制－居住地域別



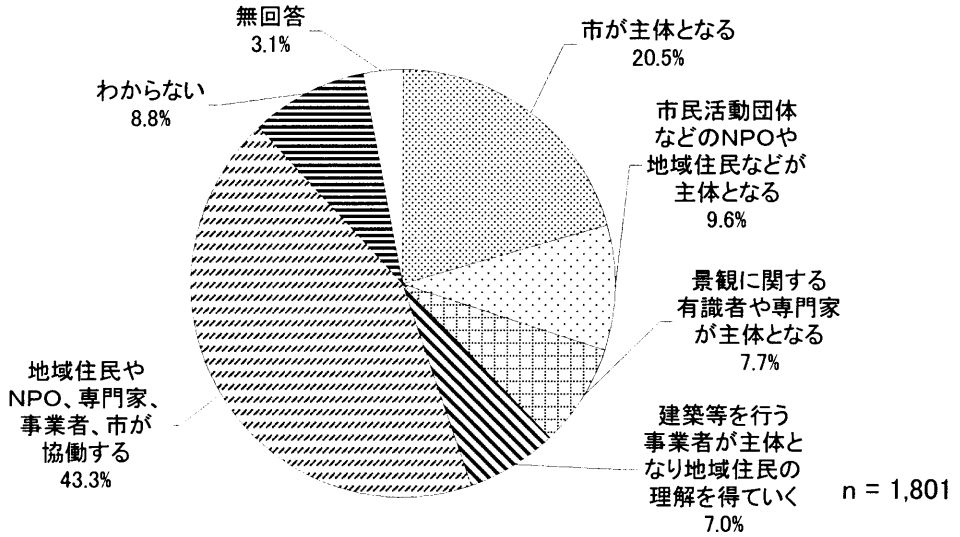

居住地域別にみると、「屋根や外壁等の色彩や素材」は加住・石川（北部地域）で２割弱（19.0%）と比較的低くなっている。（図４－13－３）

## ４－14　基準づくりや基準を守るための主体

*◇「地域住民やＮＰＯ、専門家、事業者、市が協働する」が４割強*

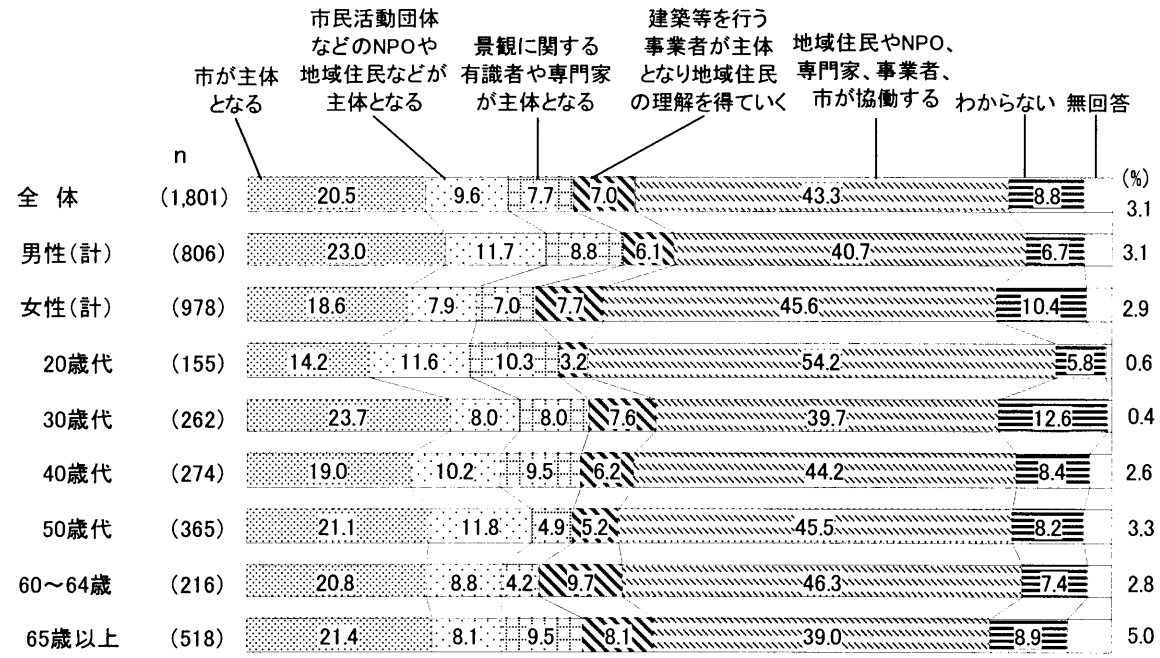
問17　地域の個性を活かした魅力ある街並みをつくるためには、地域で合意された基準が必要だと考えますが、このような基準づくりや基準を守るように働きかけていくのは、誰が主体となればよいと思いますか。（○は１つだけ）

図４－14－１




魅力ある街並みをつくるための基準づくりや、基準を守るように働きかけていく主体について聞いたところ、「地域住民やＮＰＯ、専門家、事業者、市が協働する」が４割強（43.3%）と突出して高く、以下、「市が主体となる」（20.5%）、「市民活動団体などのＮＰＯや地域住民などが主体となる」（9.6%）、「景観に関する有識者や専門家が主体となる」（7.7%）の順で続いている。（図４－14－１）

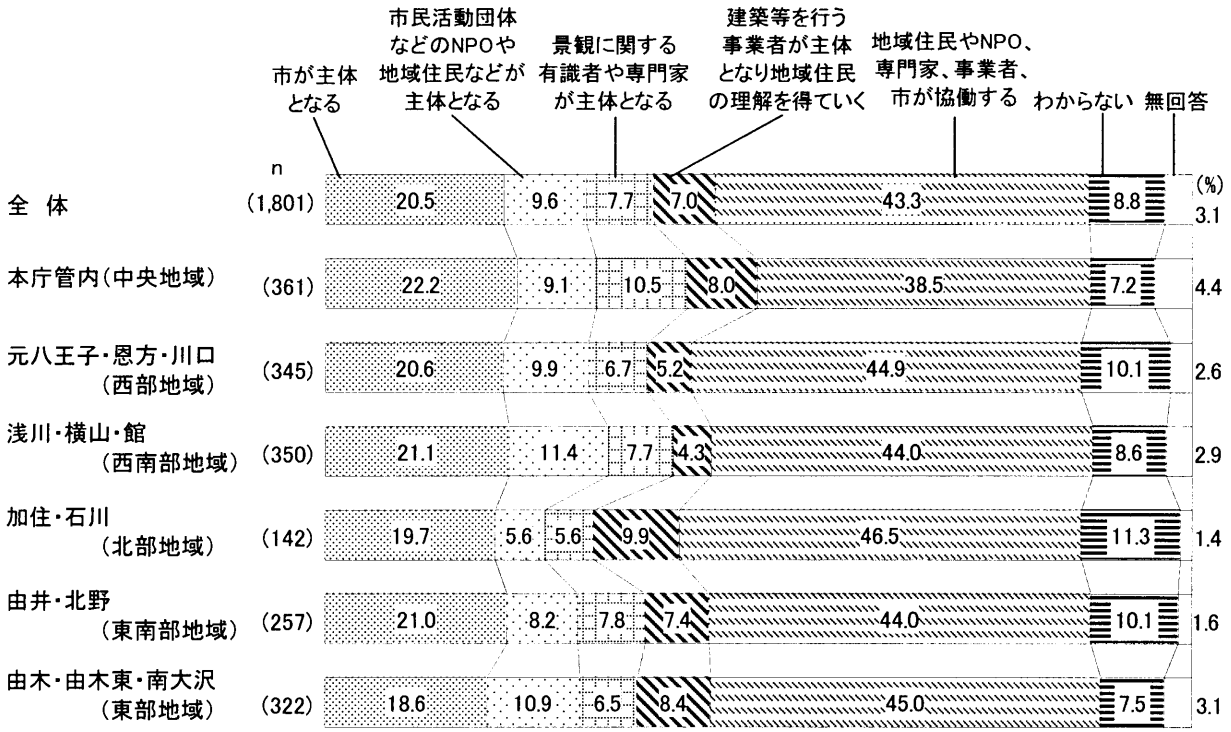
図４－14－２　基準づくりや基準を守るための主体－性別・年齢別




性別にみると、男性のほうが「市が主体となる」が4.4ポイント高く、女性のほうが「地域住民やＮＰＯ、専門家、事業者、市が協働する」が4.9ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「地域住民やＮＰＯ、専門家、事業者、市が協働する」は20歳代で５割台半ば（54.2%）と割合が高くなっている。（図４－14－２）

図４－14－３　基準づくりや基準を守るための主体－居住地域別



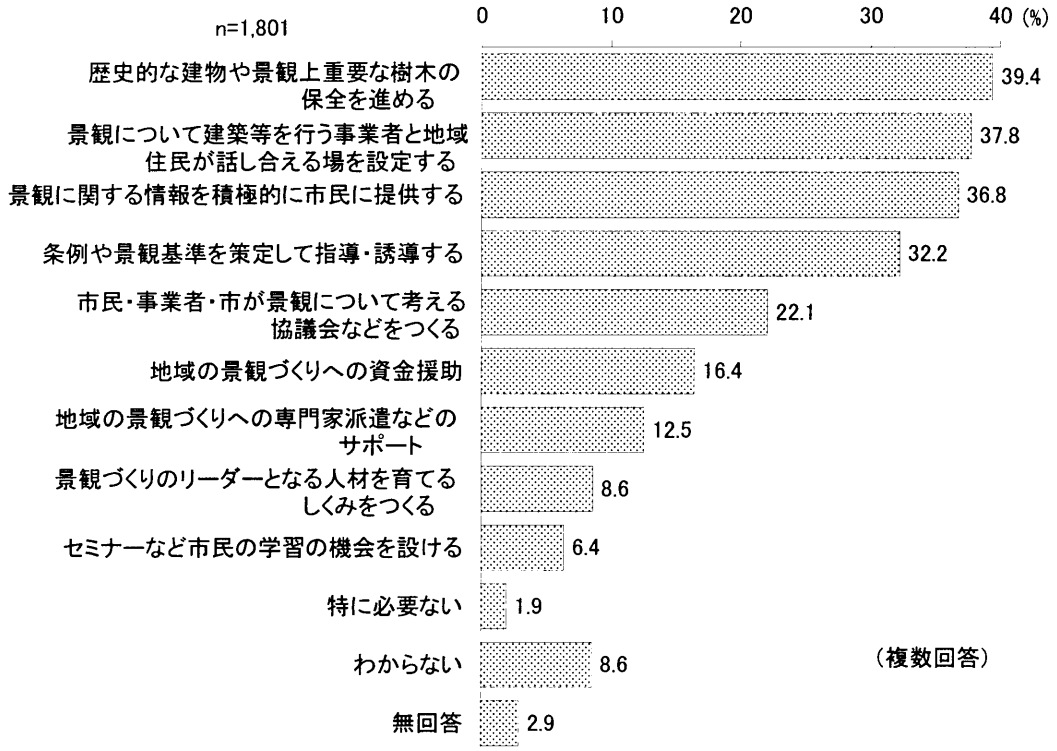

居住地域別にみると、「地域住民やＮＰＯ、専門家、事業者、市が協働する」は本庁管内（中央地域）が４割弱（38.5%）と他地区に比べ低くなっている。（図４－14－３）

## ４－15　注力すべき景観施策

*◇「歴史的な建物や景観上重要な樹木の保全を進める」が４割近く*

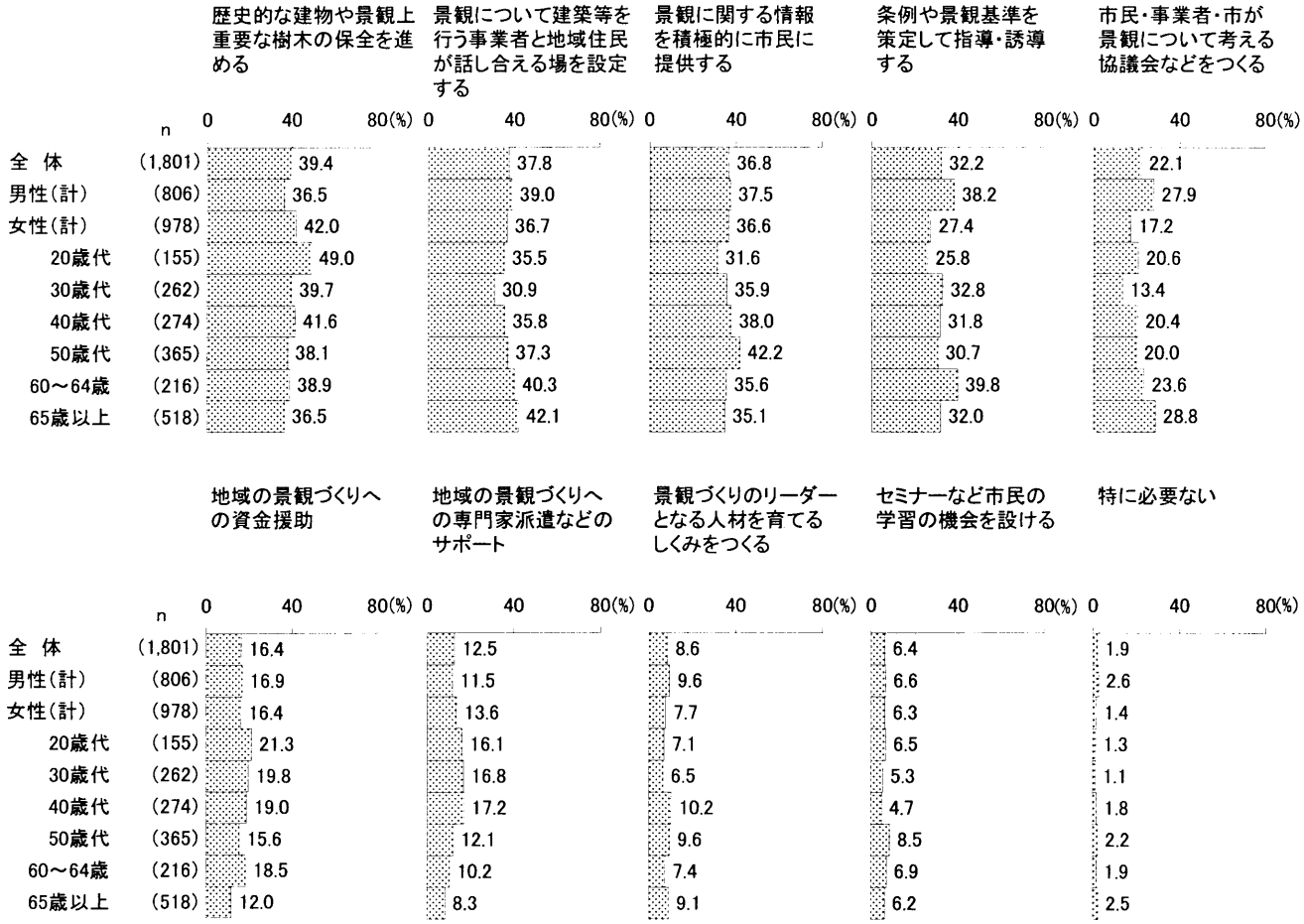
問18　市は、今後どのような景観施策に力を入れていくべきだと思いますか。（○は３つまで）

図４－15－１




今後、力を入れていくべき景観施策を聞いたところ、「歴史的な建物や景観上重要な樹木の保全を進める」（39.4%）、「景観について建築等を行う事業者と地域住民が話し合える場を設定する」（37.8%）、「景観に関する情報を積極的に市民に提供する」（36.8%）がいずれも４割近くとなり、上位三項目となっている。以下、「条例や景観基準を策定して指導・誘導する」（32.2%）、「市民・事業者・市が景観について考える協議会などをつくる」（22.1%）、「地域の景観づくりへの資金援助」（16.4%）の順で続いている。（図４－15－１）

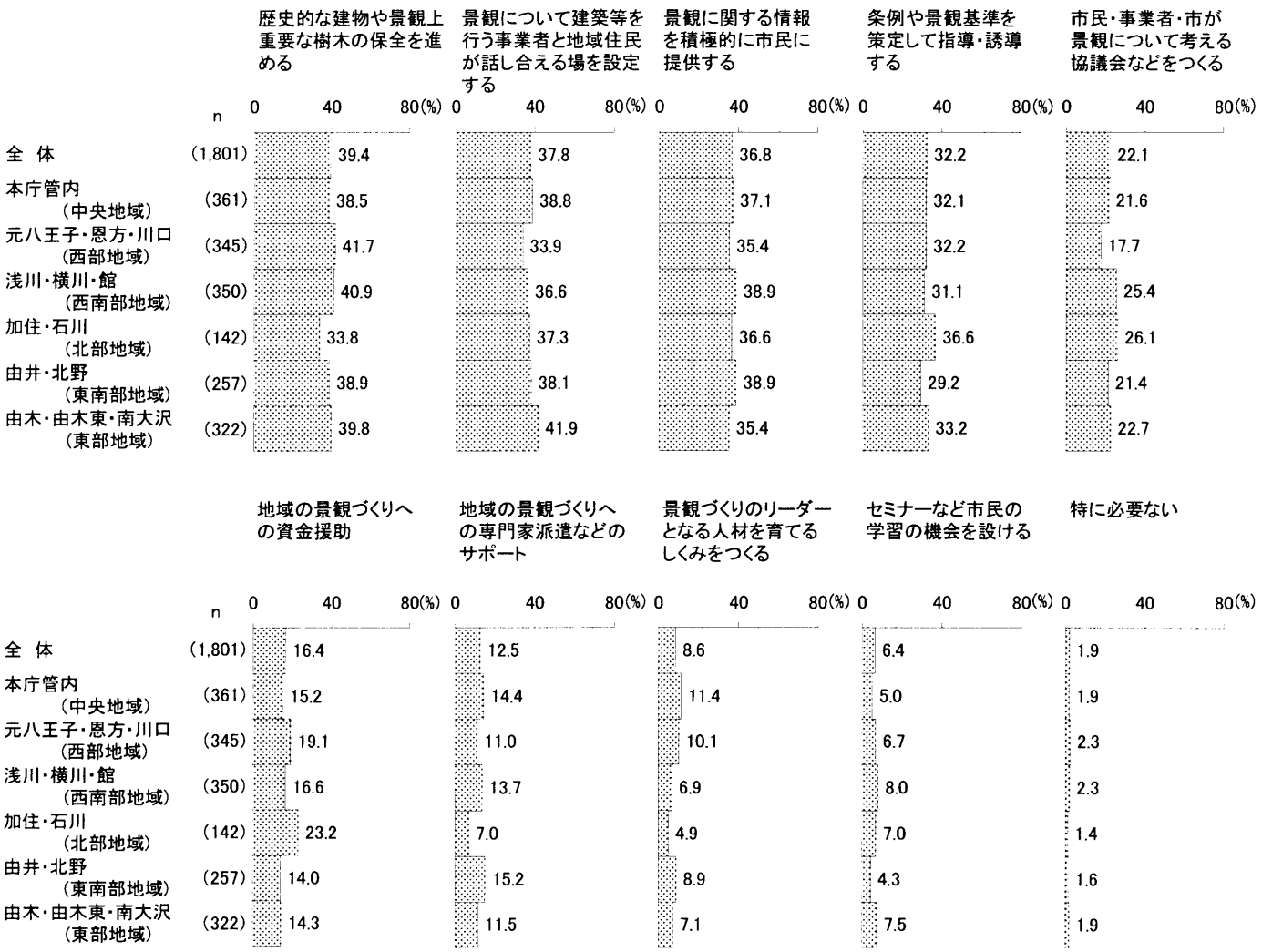
## 図４－15－２　注力すべき景観施策－性別・年齢別




性別にみると、男性のほうが「条例や景観基準を策定して指導・誘導する」で10.8ポイント、「市民・事業者・市が景観について考える協議会などをつくる」で10.7ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「歴史的な建物や景観上重要な樹木の保全を進める」では20歳代（49.0%）が他に比べて高く、「景観について建築等を行う事業者と地域住民が話し合える場を設定する」や「市民・事業者・市が景観について考える協議会などをつくる」は、30歳代を除き、年齢が高くなるほど割合が高くなっている。（図４－15－２）

## 図４－15－３　注力すべき景観施策－居住地域別




居住地域別にみると、「歴史的な建物や景観上重要な樹木の保全を進める」は元八王子・恩方・川口（西部地域）で４割強（41.7%）と高くなっている。（図４－15－３）